

第5章 比較グラフ

政令市比較

新潟市の特性を知るため、政令指定都市 20 市の比較データをグラフにまとめました。

- ① 人口総数
- ② 人口増減数, 人口増減率
- ③ 年齢(3 区分)別人口の割合
- ④ 人口密度
- ⑤ 一般世帯数, 一般世帯の 1 世帯当たり人員
- ⑥ 3 世代世帯の割合
- ⑦ 居住外国人の割合
- ⑧ 持ち家の割合
- ⑨ 一戸建の割合
- ⑩ 共働きの割合
- ⑪ 産業(3 部門)別 15 歳以上就業者数の割合
- ⑫ 昼夜間人口比率

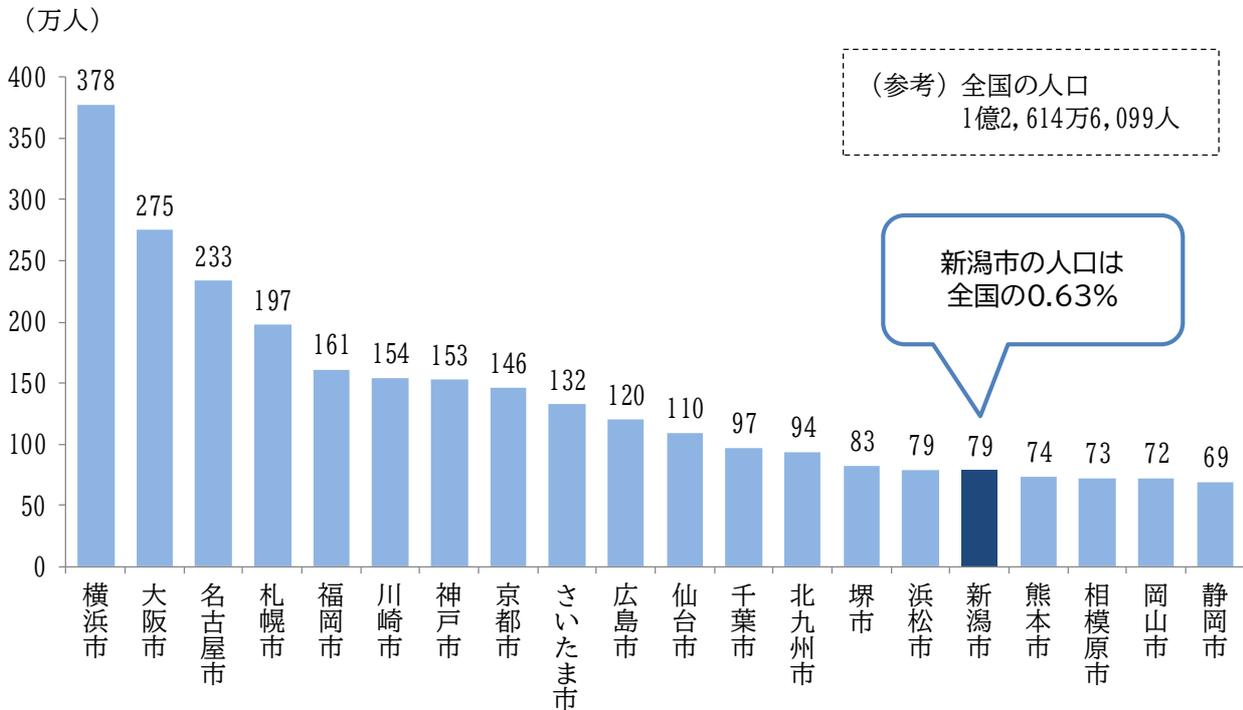
行政区比較

8 区の特性を知るため、行政区別のデータをグラフにまとめました。

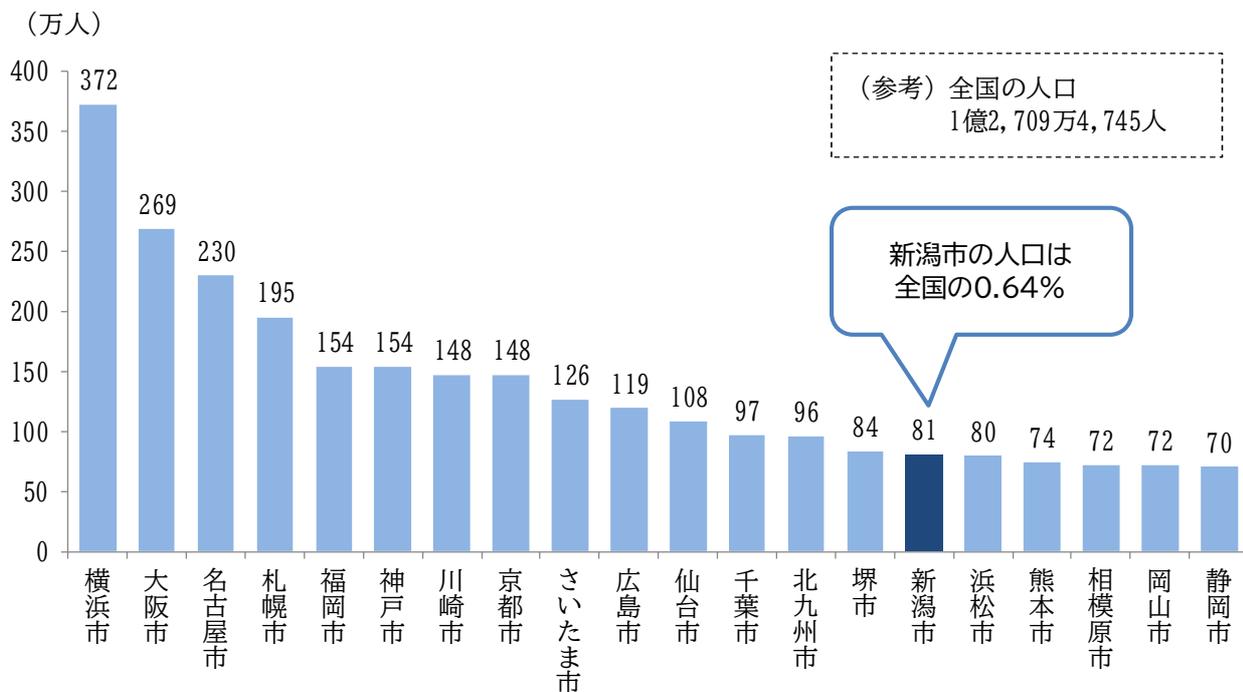
- ① 人口総数
- ② 人口増減数, 人口増減率
- ③ 年齢(3 区分)別人口の割合
- ④ 人口密度
- ⑤ 一般世帯数, 一般世帯の 1 世帯当たり人員
- ⑥ 3 世代世帯の割合
- ⑦ 居住外国人の割合
- ⑧ 持ち家の割合
- ⑨ 一戸建の割合
- ⑩ 共働きの割合
- ⑪ 産業(3 部門)別 15 歳以上就業者数の割合
- ⑫ 昼夜間人口比率

政令市比較①	人口総数	新潟市の人口は 789,275 人で、 20 政令市中 16 番目
--------	------	--------------------------------------

令和 2 年



平成 27 年

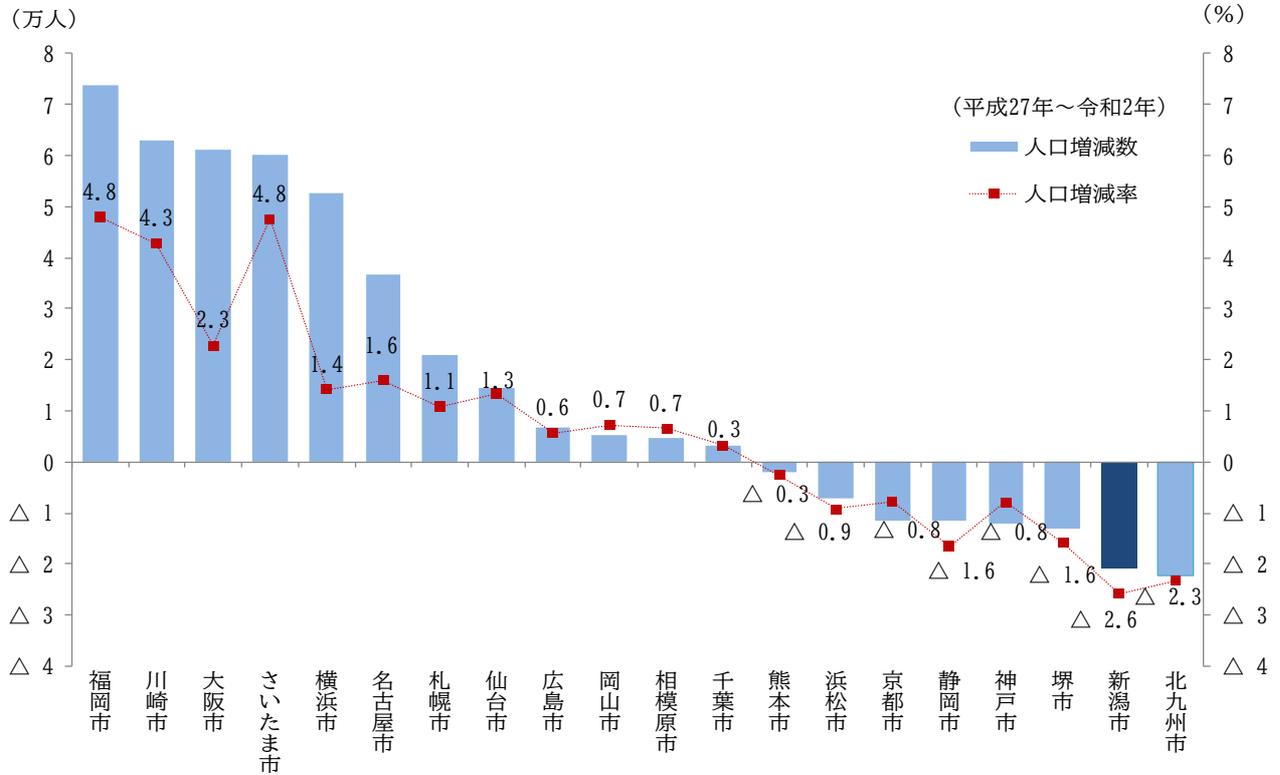


政令市比較②

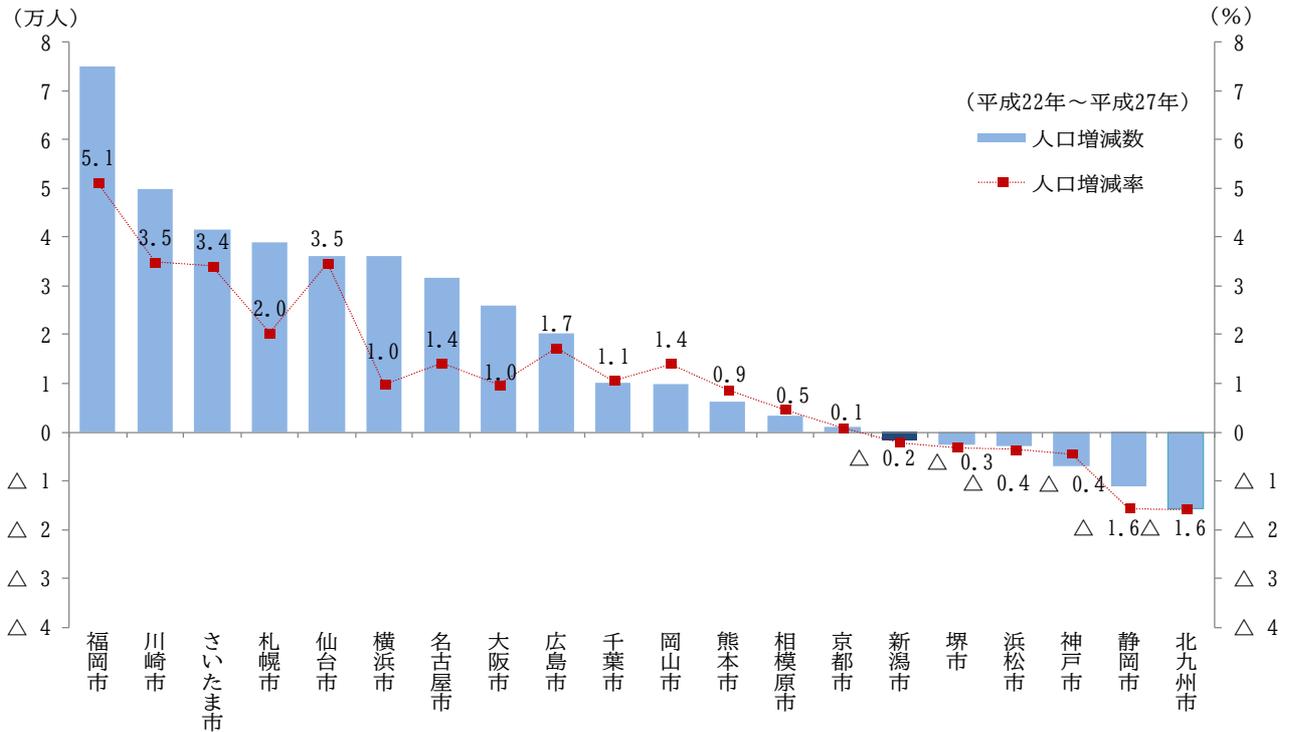
人口増減数, 人口増減率

5年前と比較して人口が減少したのは、新潟市を含め8市

令和2年



平成27年

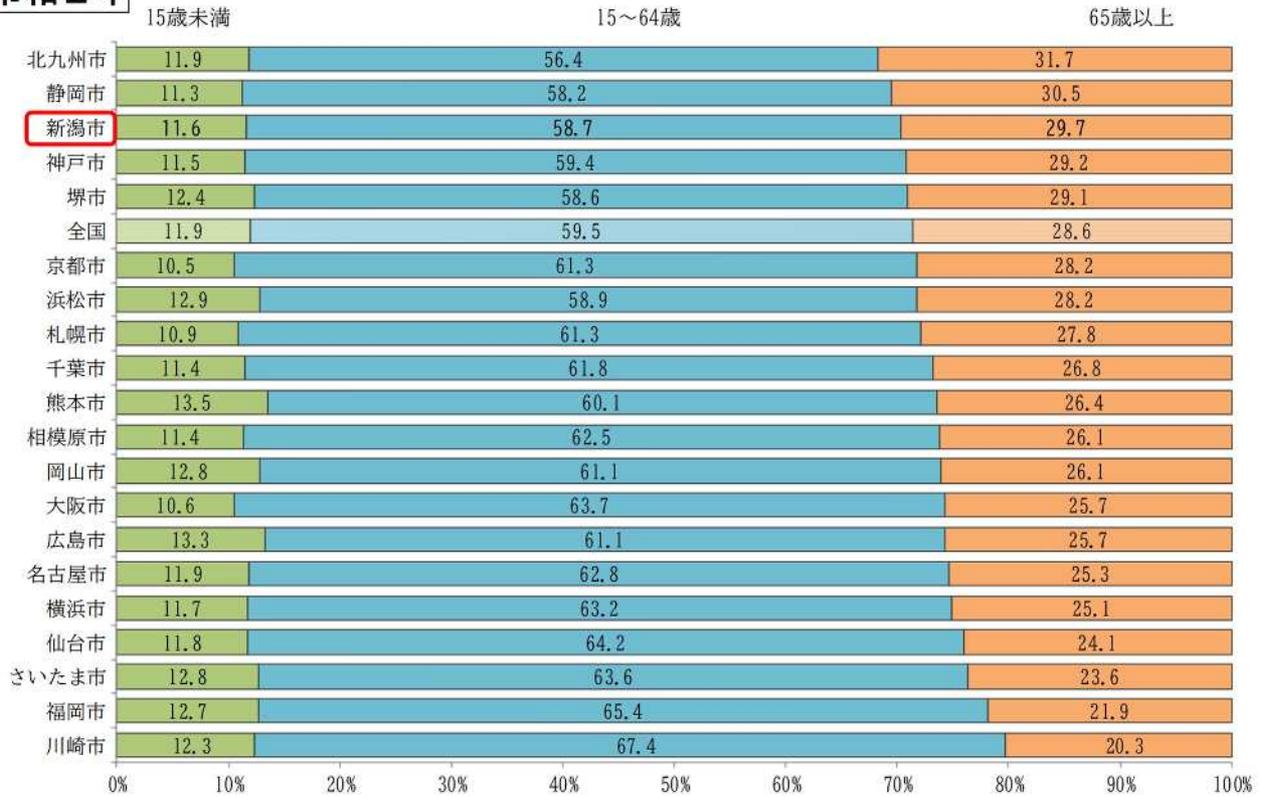


政令市比較③

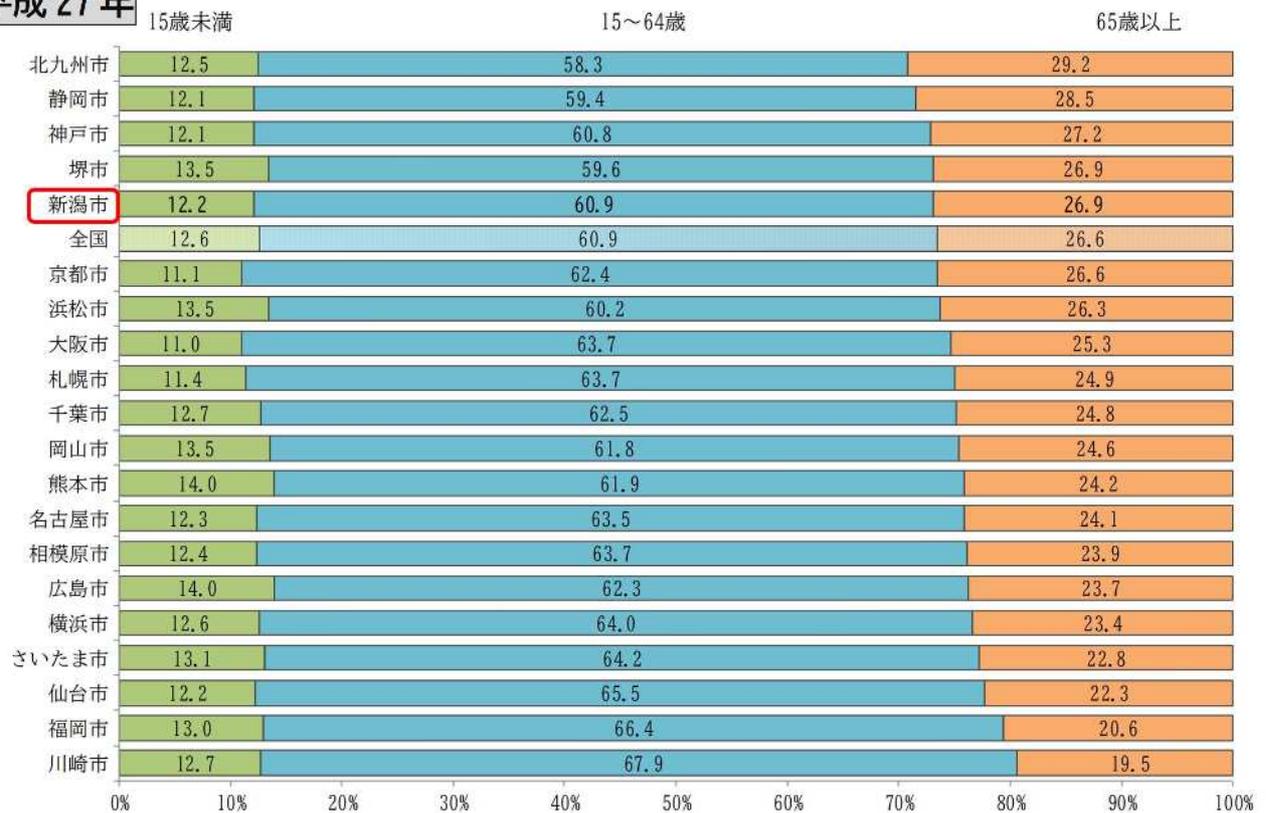
年齢(3区分)別人口の割合

65歳以上の割合は29.7%で、
20市中3番目に高い

令和2年



平成27年



注) 不詳補完値による。

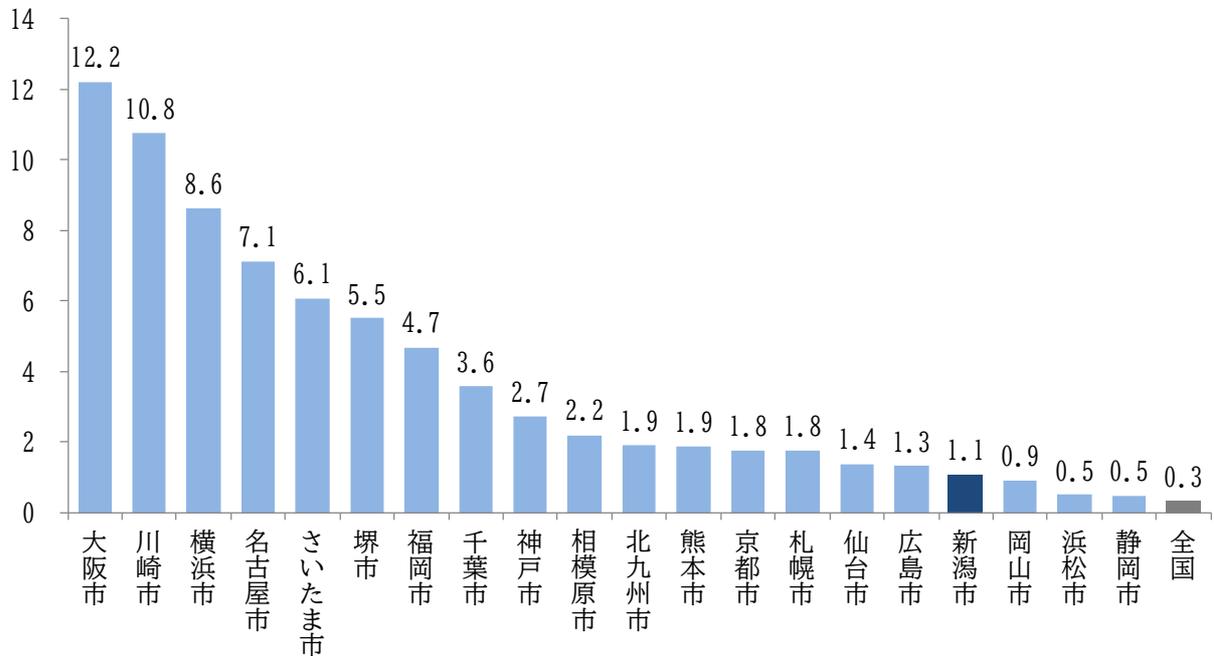
政令市比較④

人口密度

人口密度は 1086.8 人/km²で、
20 市中 17 番目

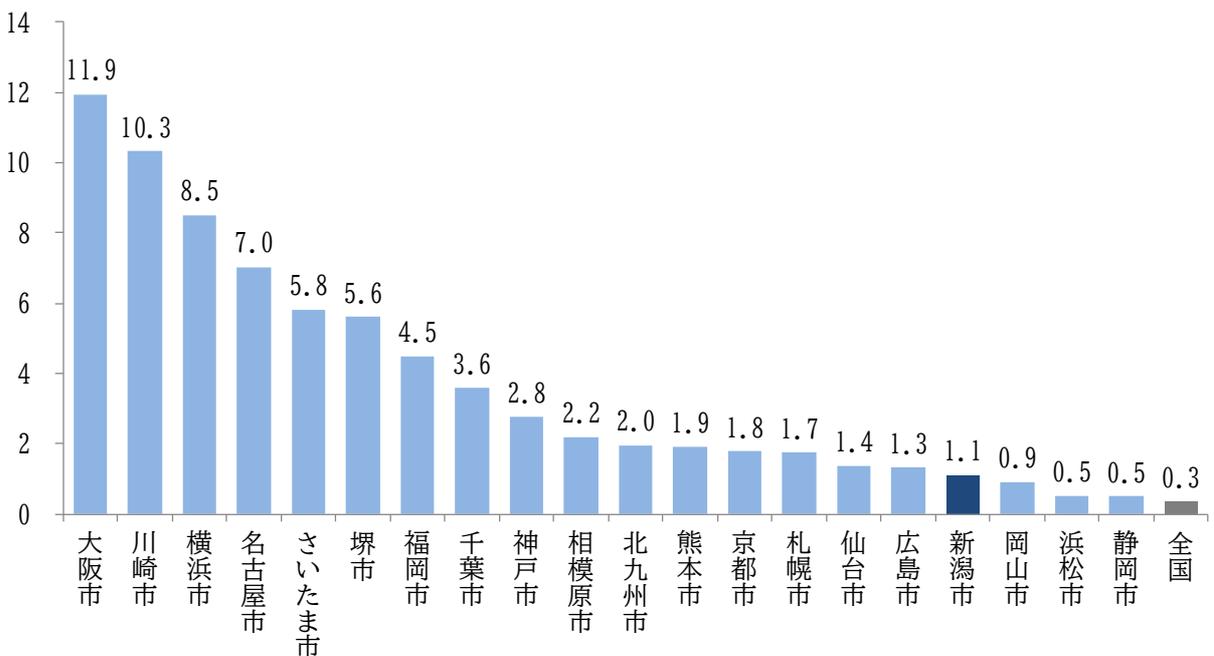
令和 2 年

(千人/km²)



平成 27 年

(千人/km²)

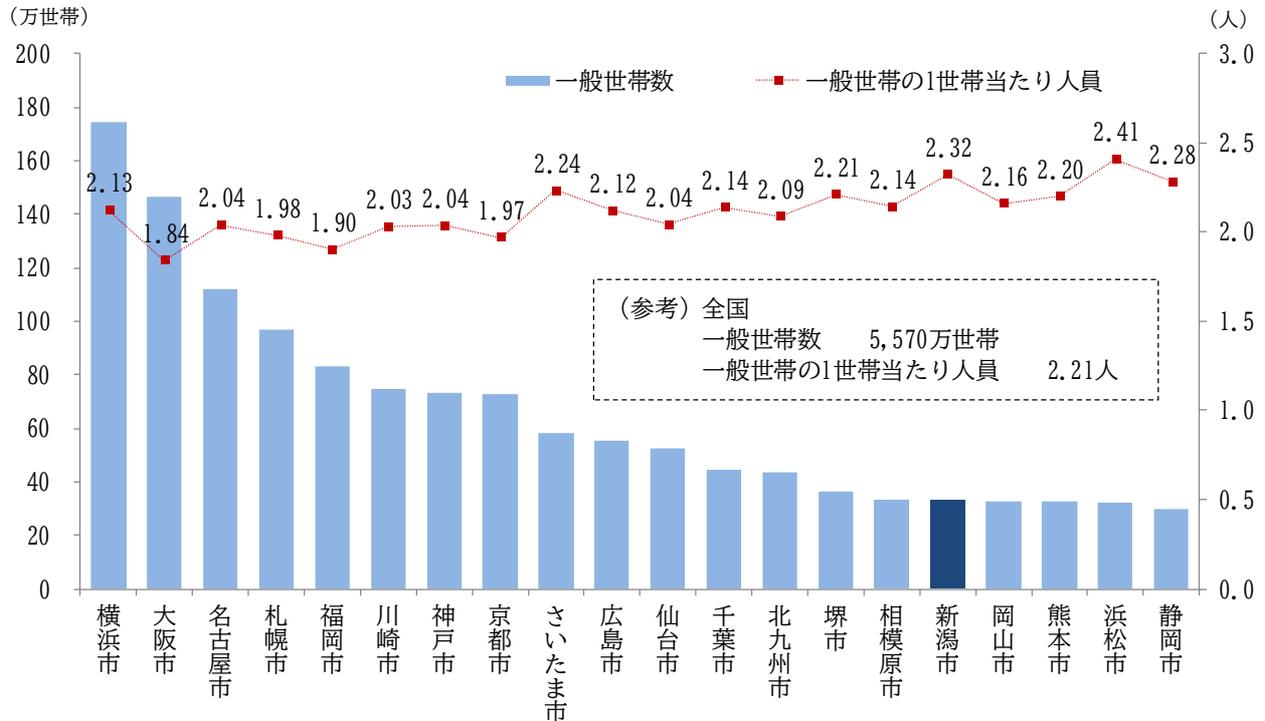


政令市比較⑤

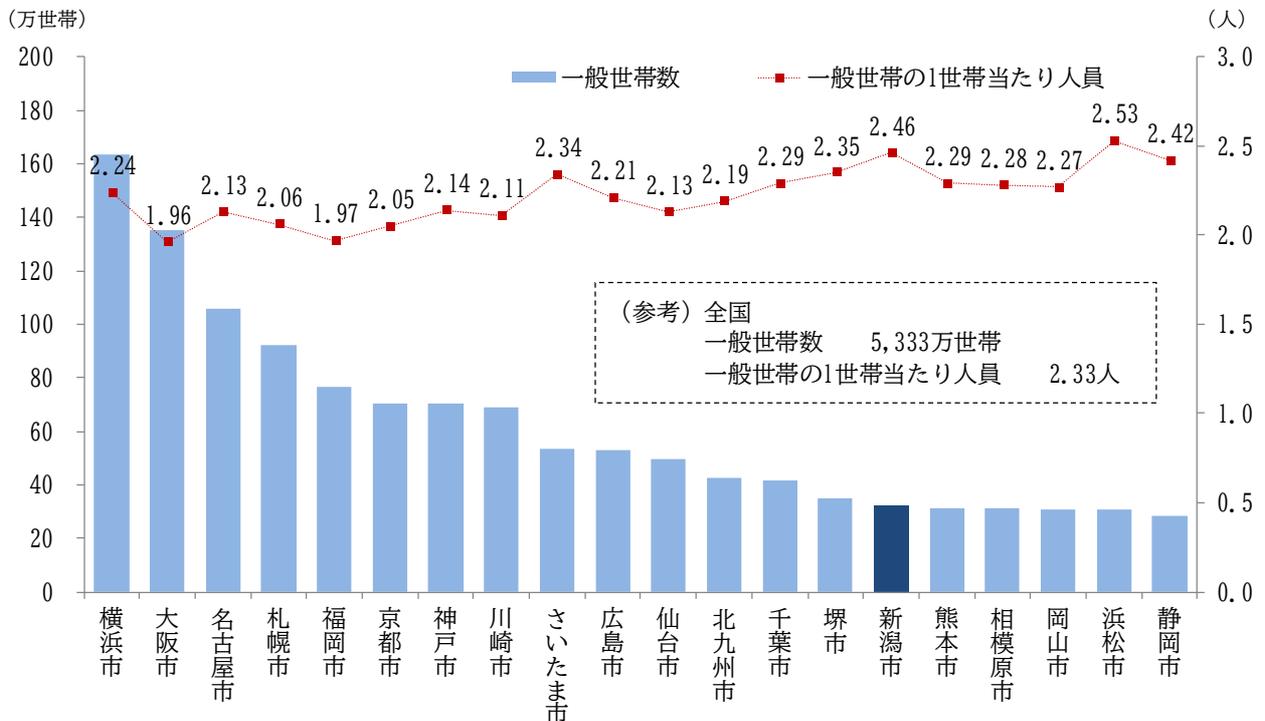
一般世帯数,
一般世帯の1世帯当たり人員

一般世帯数は20市中16番目,
一般世帯の1世帯当たり人員は2番目に多い

令和2年



平成27年

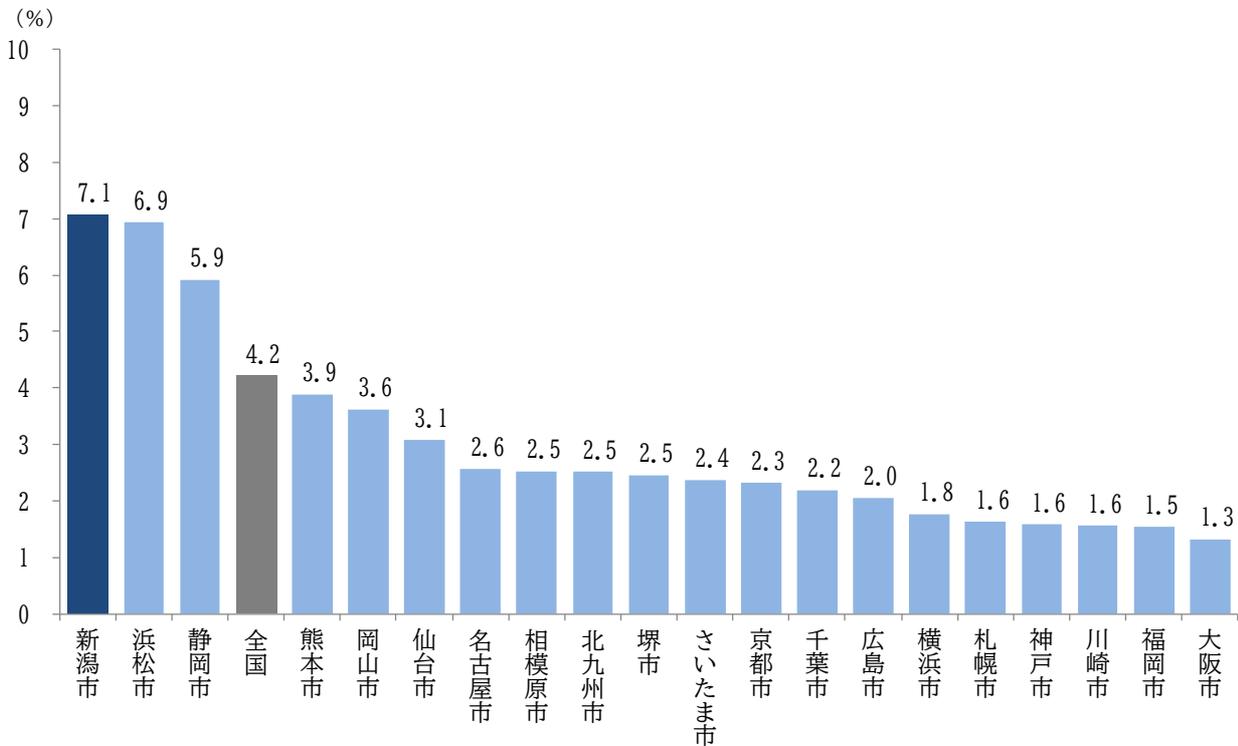


政令市比較⑥

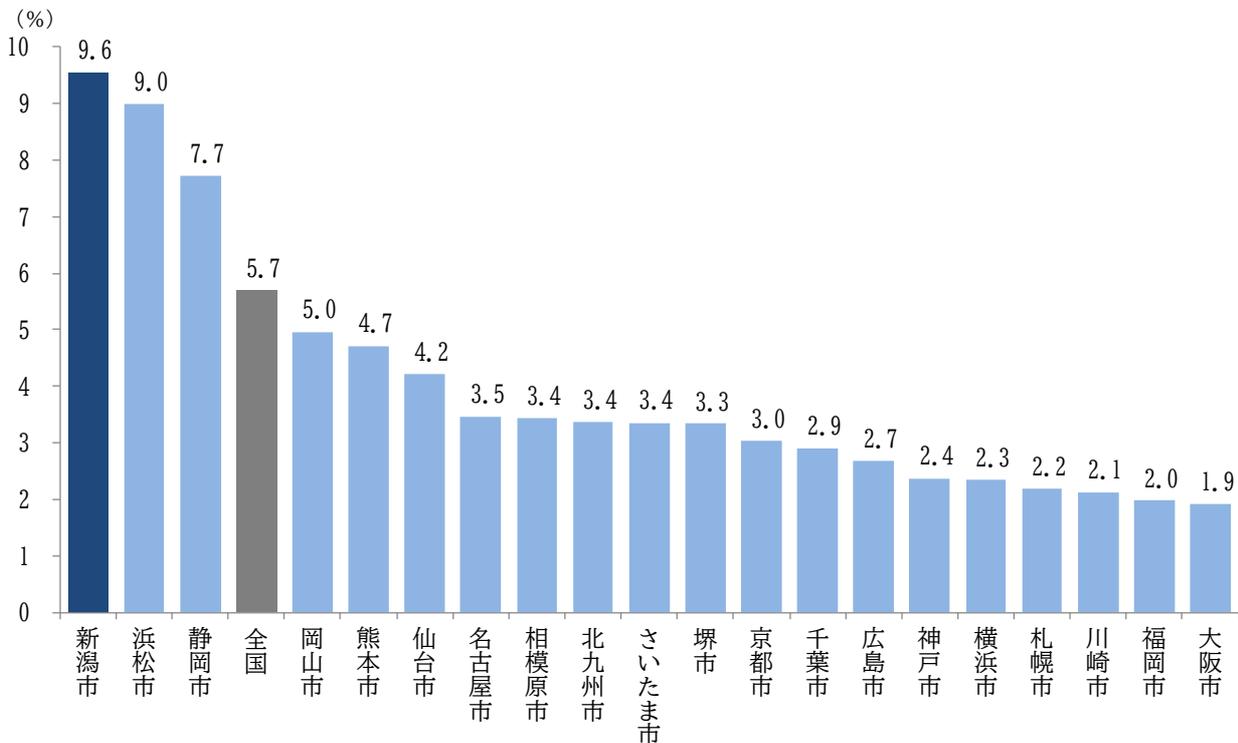
3 世代世帯の割合

一般世帯における 3 世代世帯の割合は、
20 市の中で最も高い

令和 2 年



平成 27 年



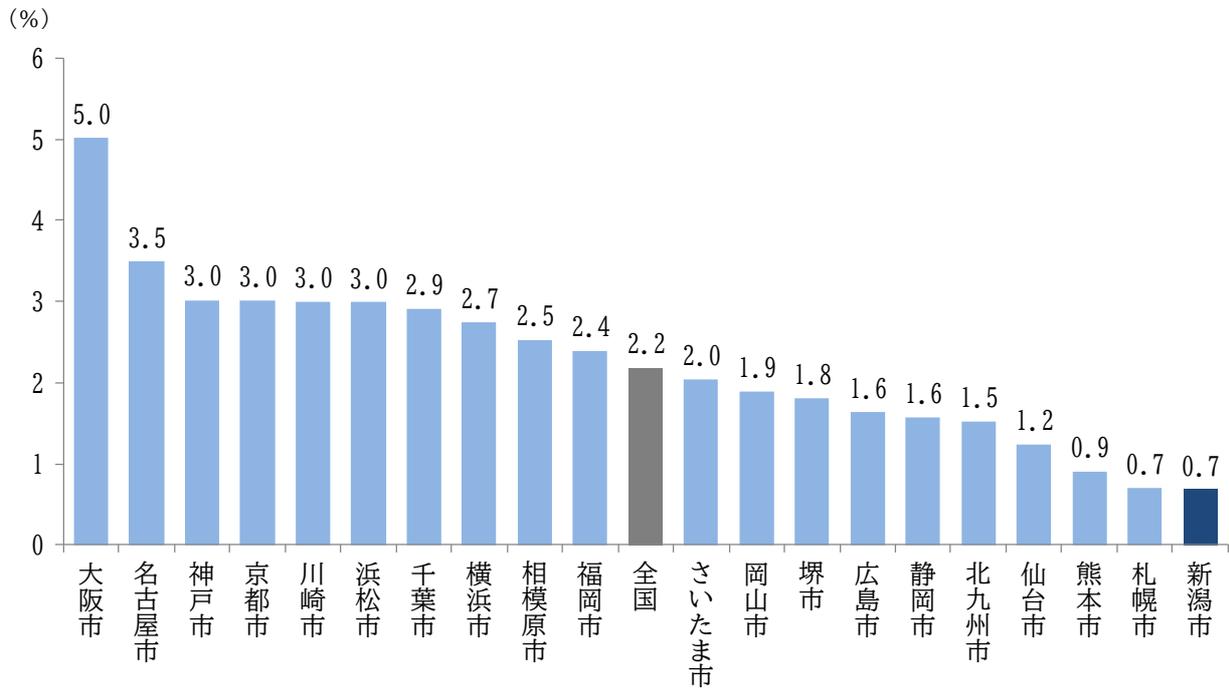
注) 割合は、分母から世帯の家族類型「不詳」を除いて算出。

政令市比較⑦

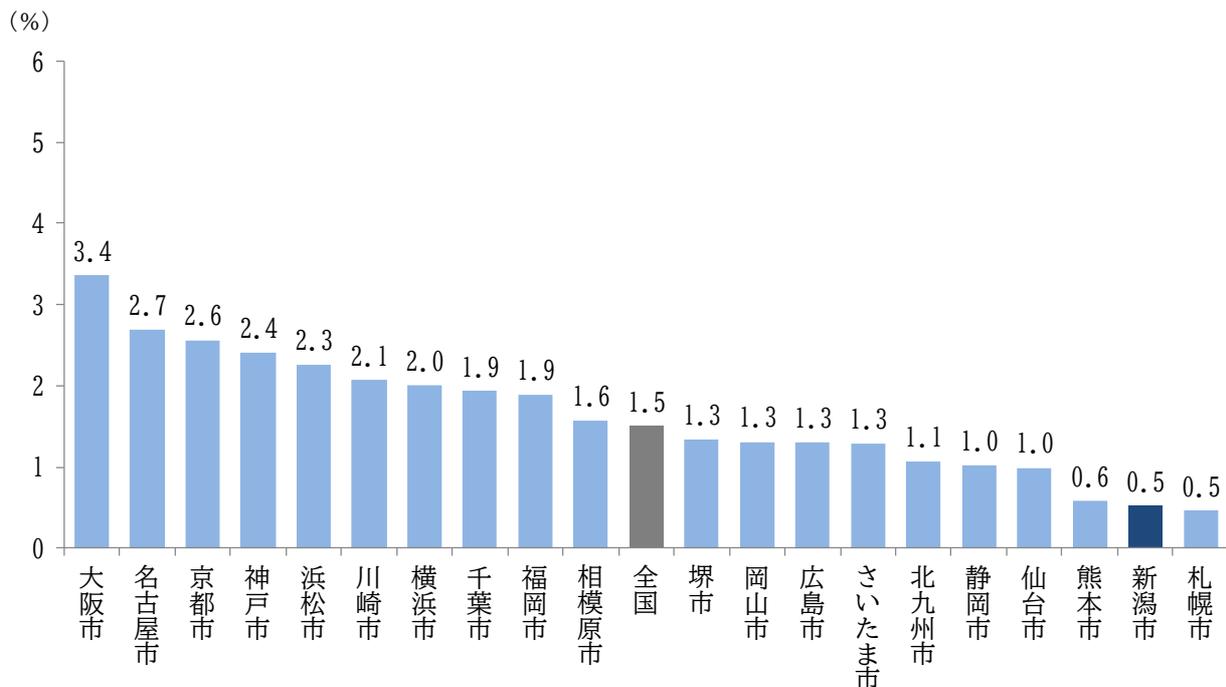
居住外国人の割合

総人口に占める外国人の割合は、
20市の中で最も低い

令和2年



平成27年



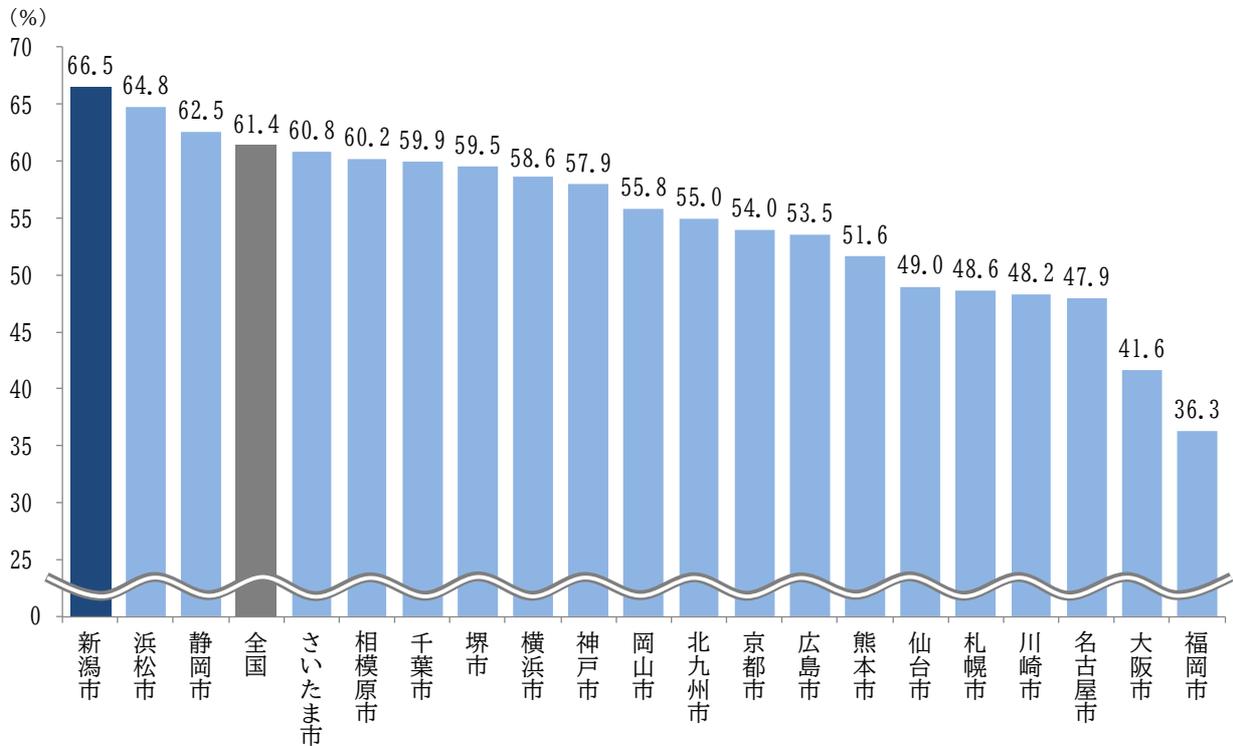
注) 不詳補完値による。

政令市比較⑧

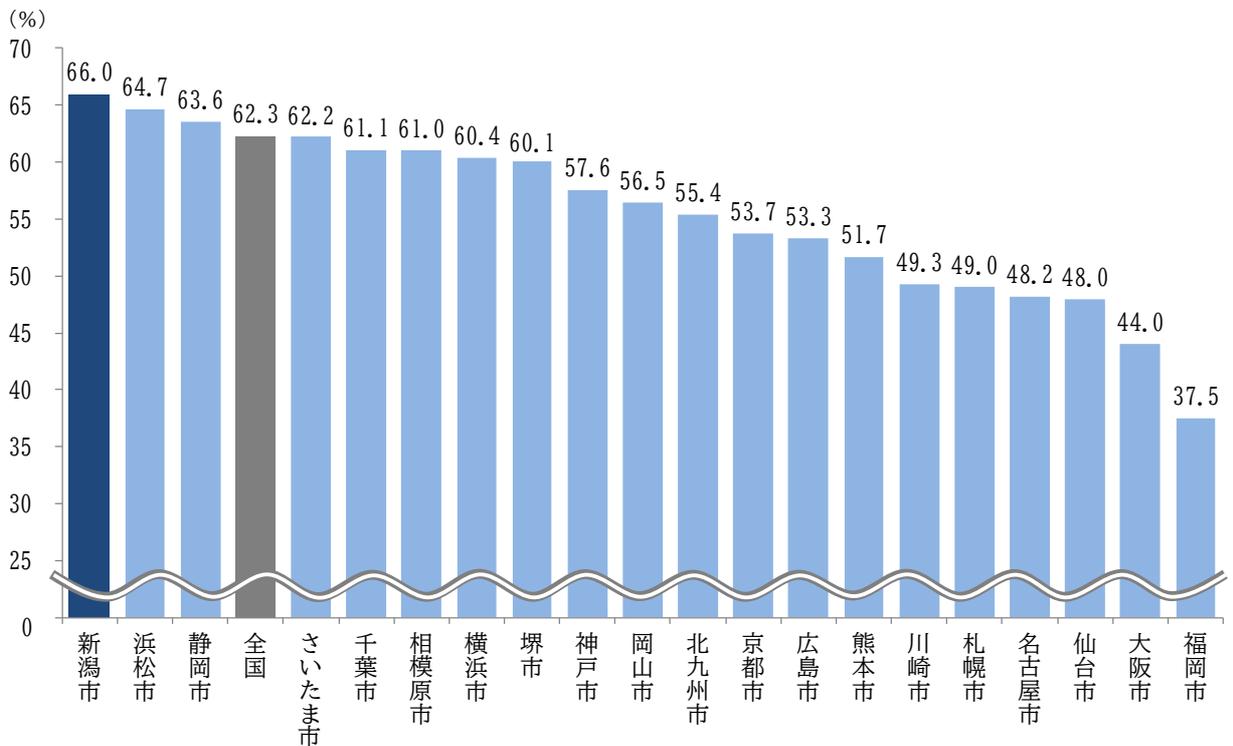
持ち家の割合

住宅に住む一般世帯における持ち家の割合は、20市の中で最も高い

令和2年



平成27年

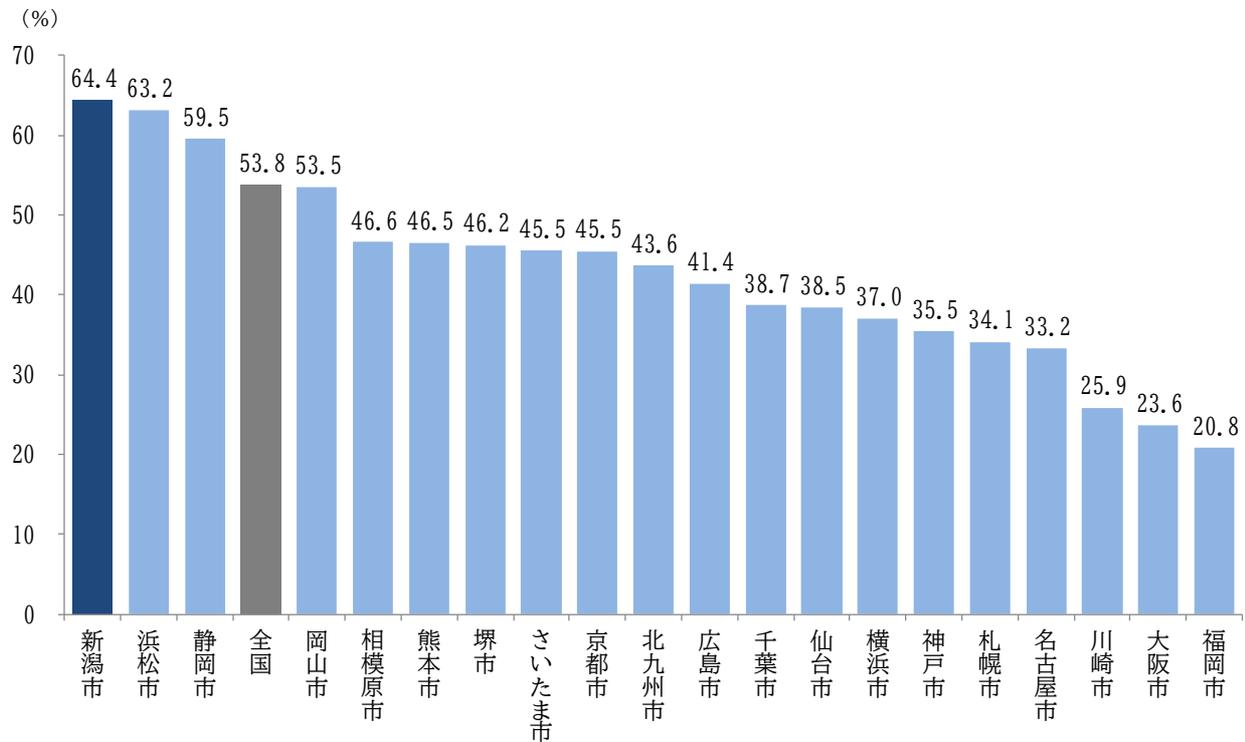


政令市比較⑨

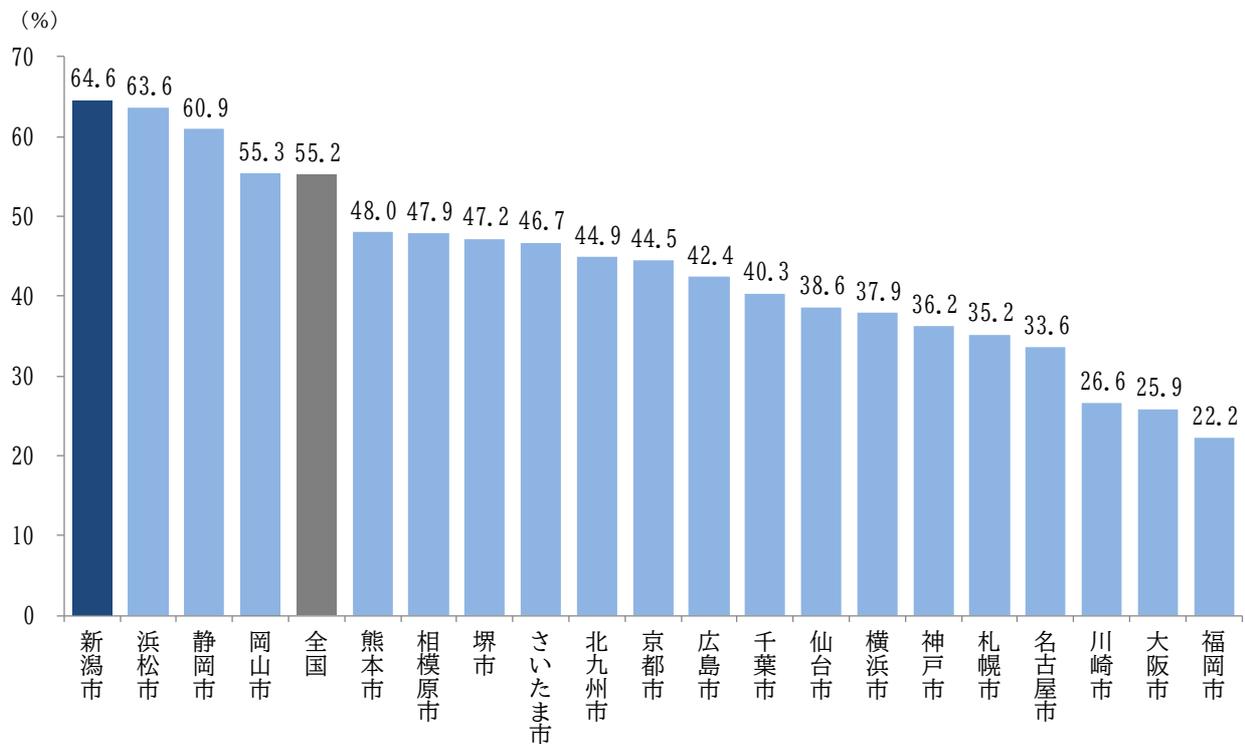
一戸建の割合

住宅に住む一般世帯における一戸建の割合は、20市の中で最も高い

令和2年



平成27年

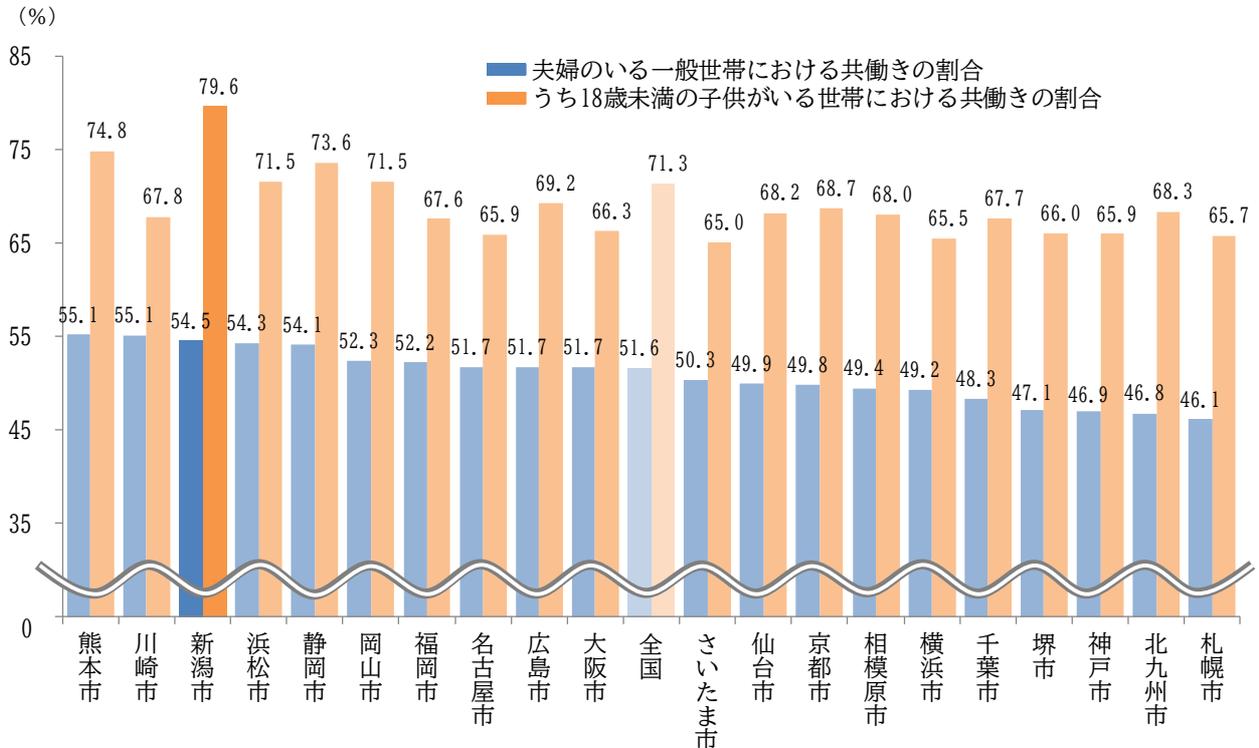


政令市比較⑩

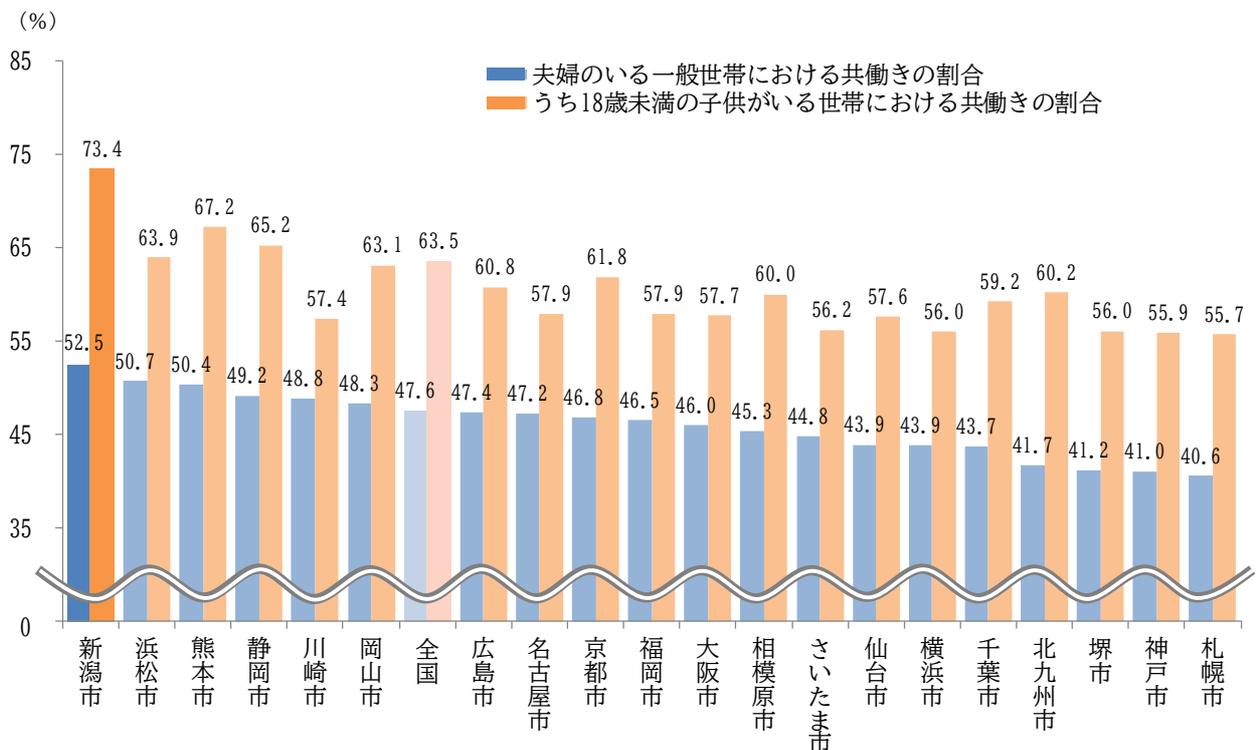
共働きの割合

夫婦のいる一般世帯における共働きの割合は20市の中で3番目に高く、うち18歳未満の子供がいる世帯における割合は最も高い

令和2年



平成27年



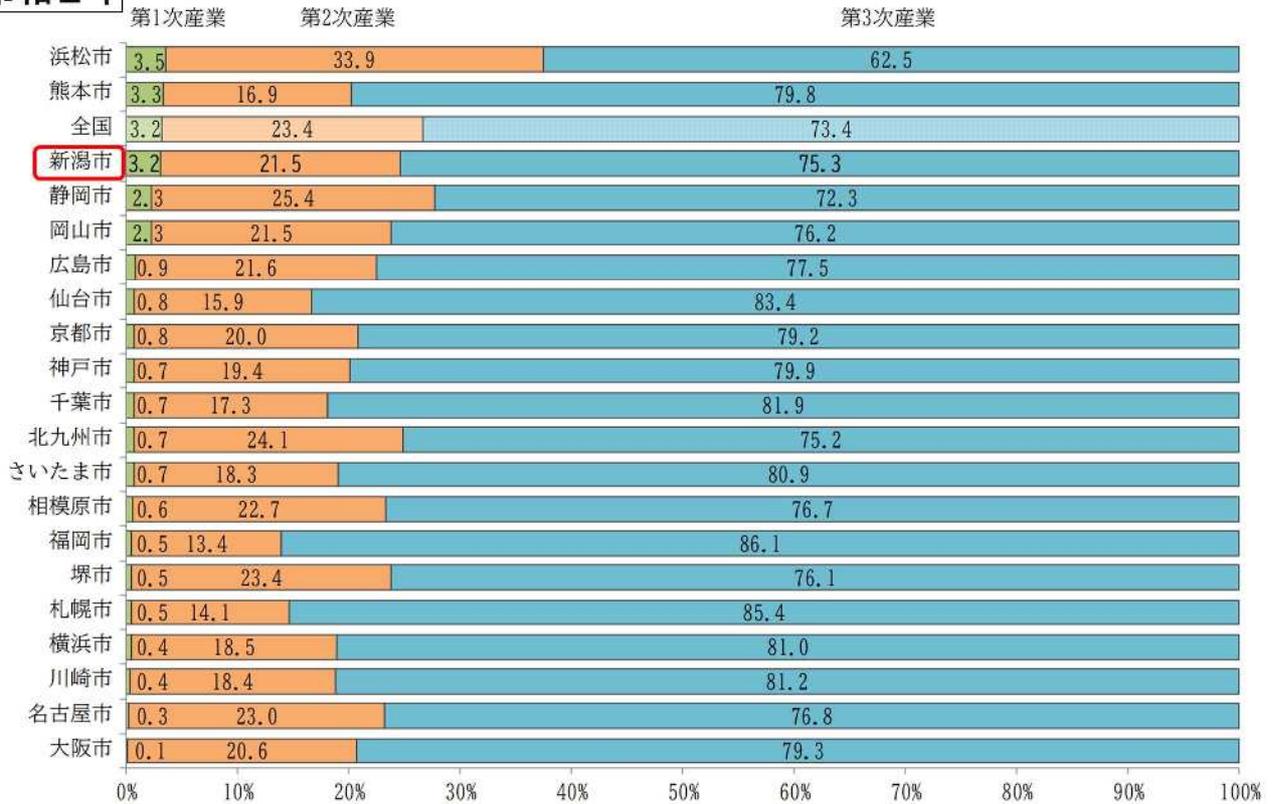
注) ここでの「共働き」とは、夫婦のいる一般世帯のうち、夫・妻ともに就業者の世帯。割合は、分母から夫婦の労働力状態「不詳」を除いて算出。

政令市比較①

産業(3部門)別
15歳以上就業者数の割合

第1次産業の割合は、20市中3番目に高い

令和2年



平成27年



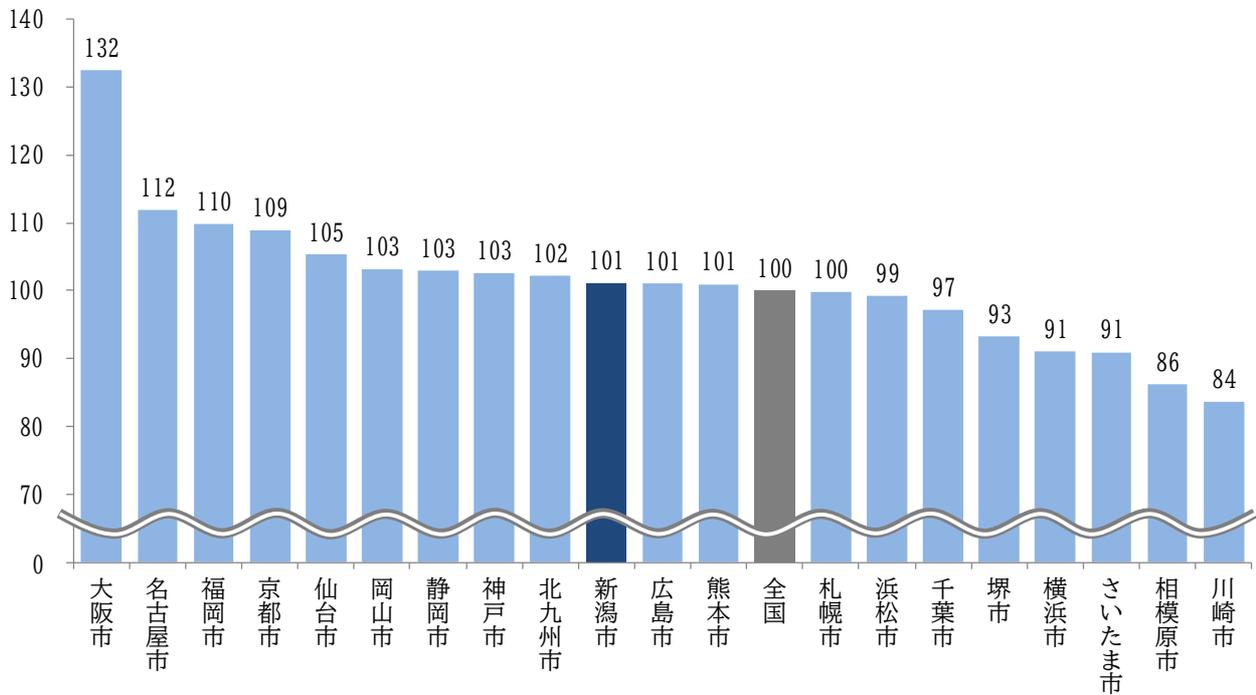
注) 不詳補完値による。

政令市比較⑫

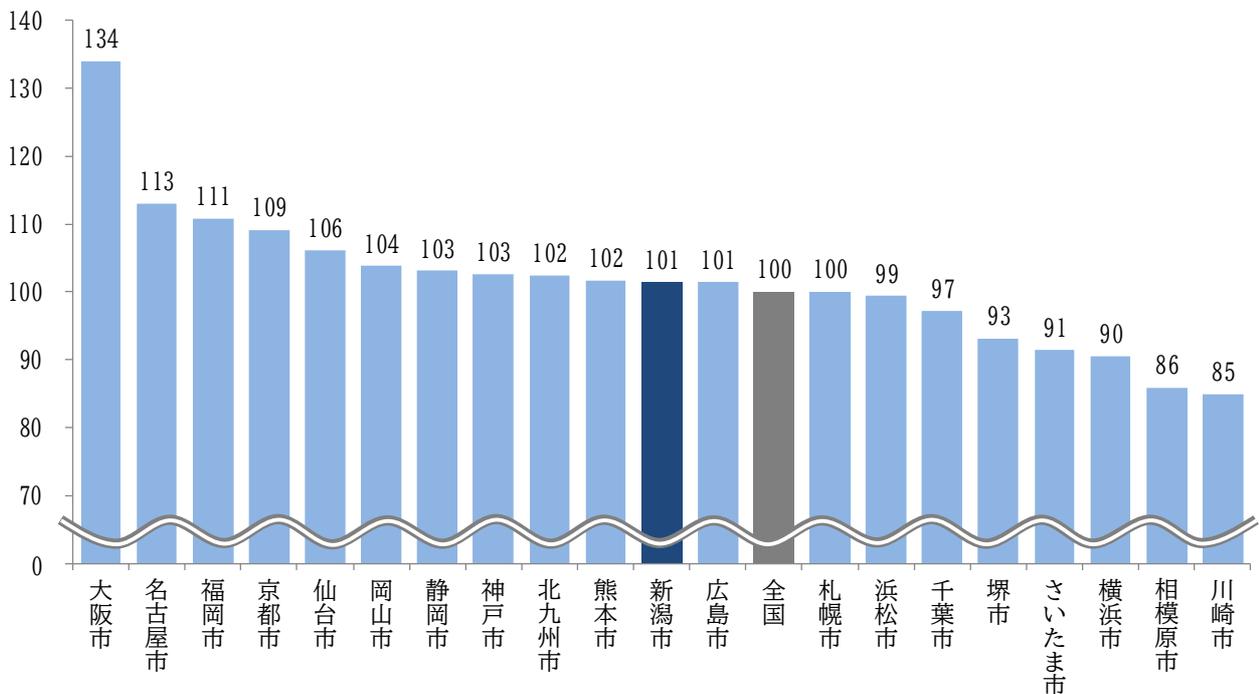
昼夜間人口比率

昼夜間人口比率は 101.2 で、
20 市中 10 番目に高い

令和 2 年



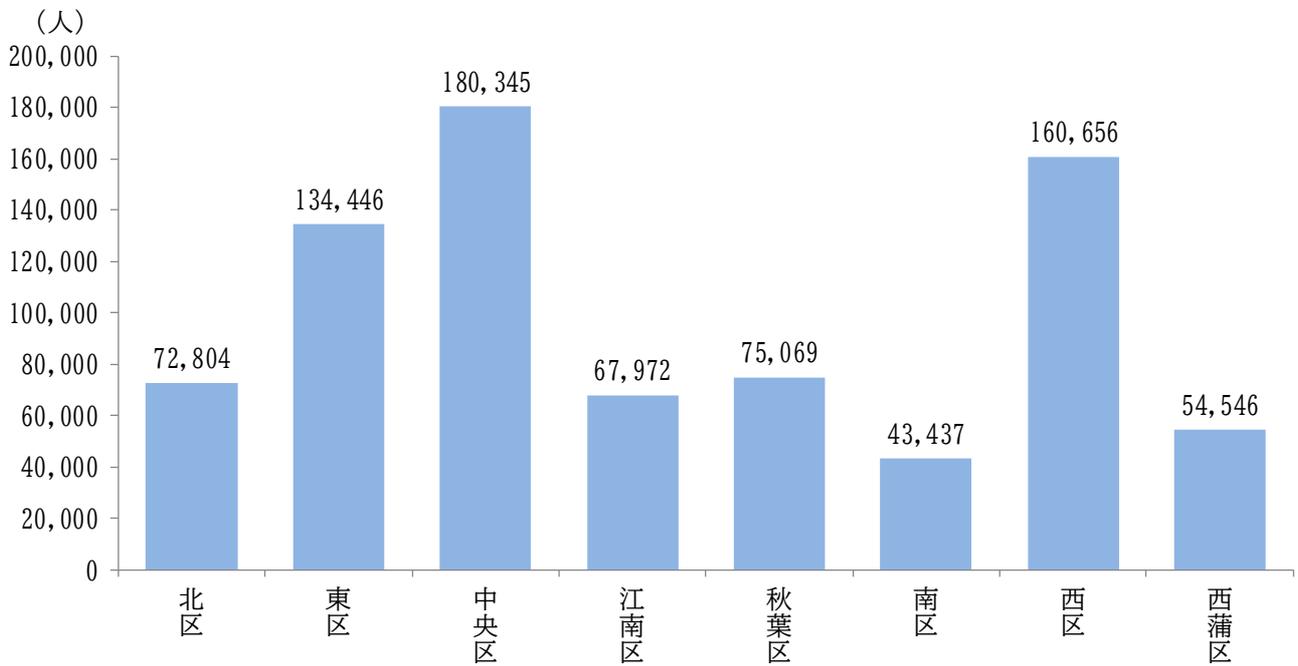
平成 27 年



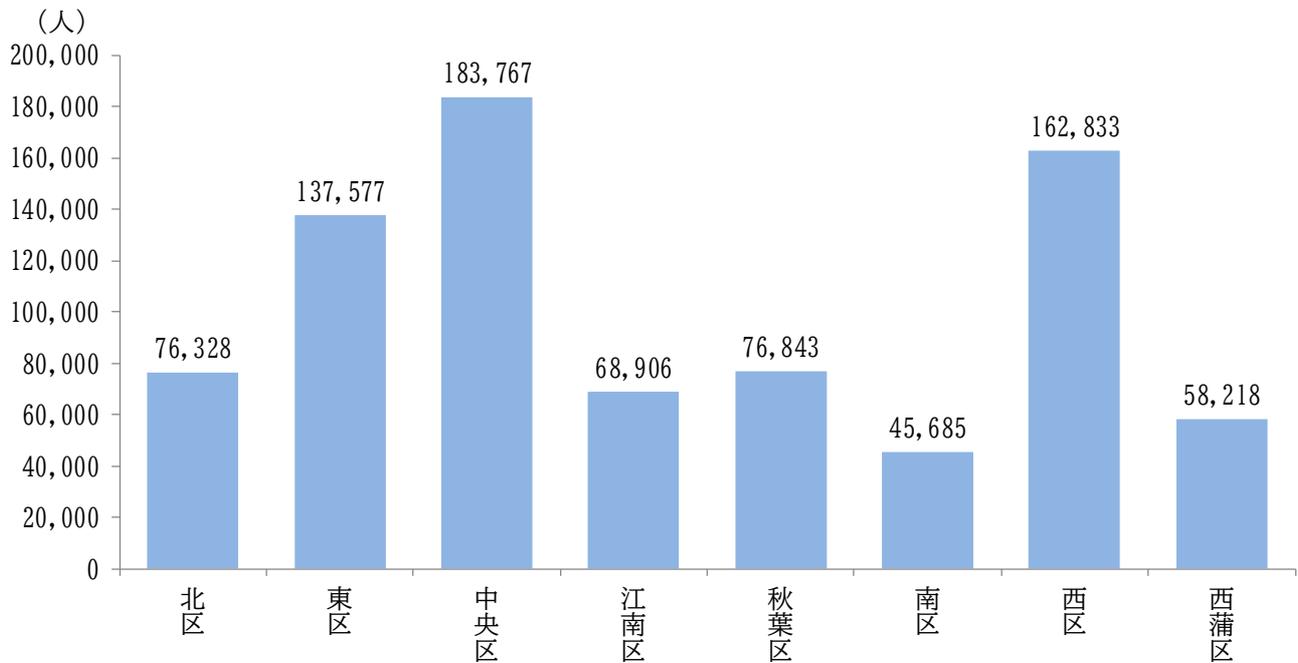
注) 不詳補完値による。

行政区比較①	人口総数	人口が最も多いのは中央区, 最も少ないのは南区
--------	------	----------------------------

令和2年



平成27年

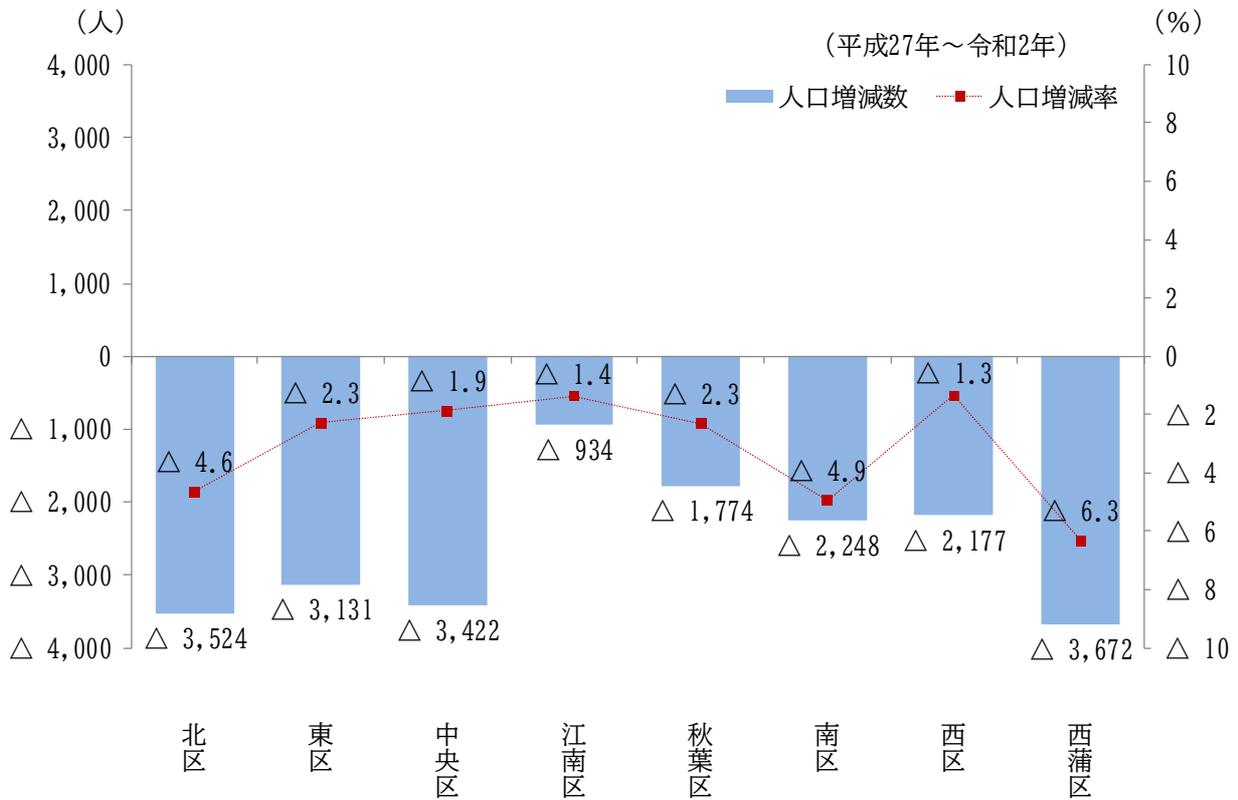


行政区比較②

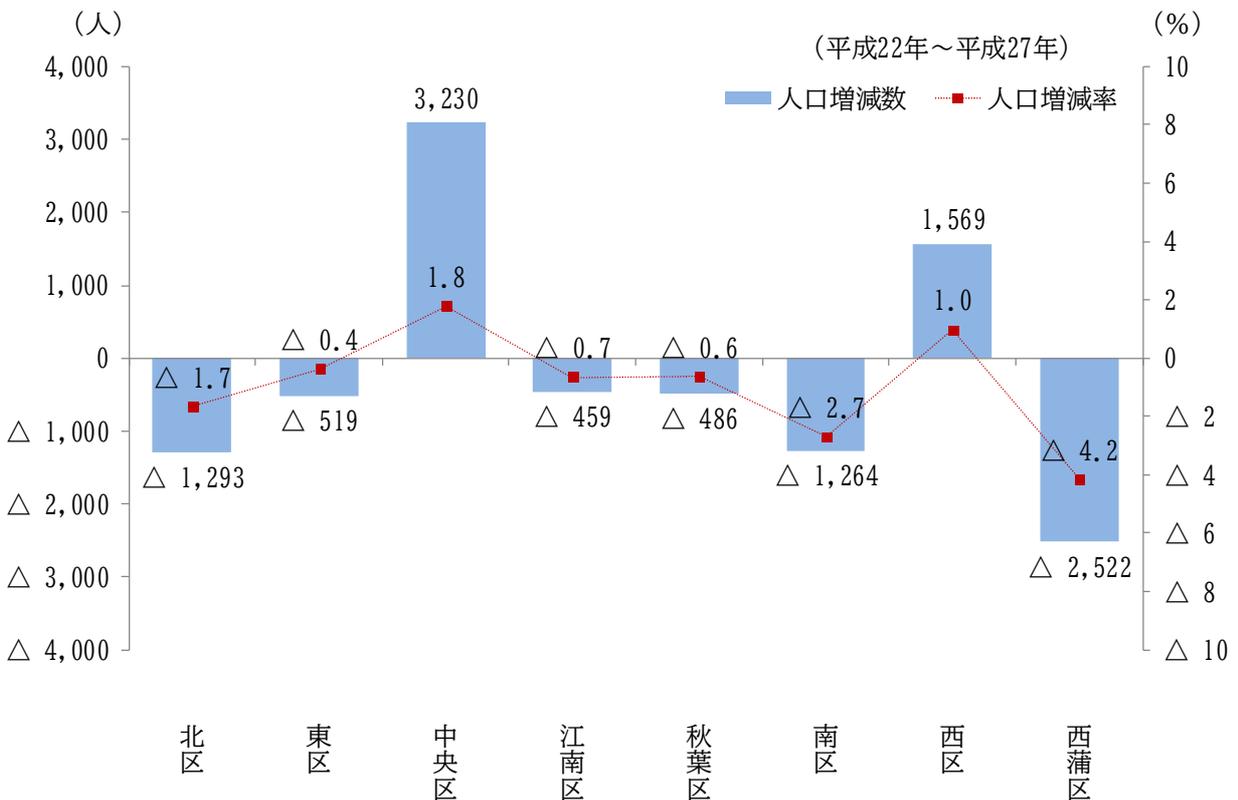
人口増減数, 人口増減率

5年前と比較して8区すべてで人口が減少
最も減少したのは西蒲区

令和2年

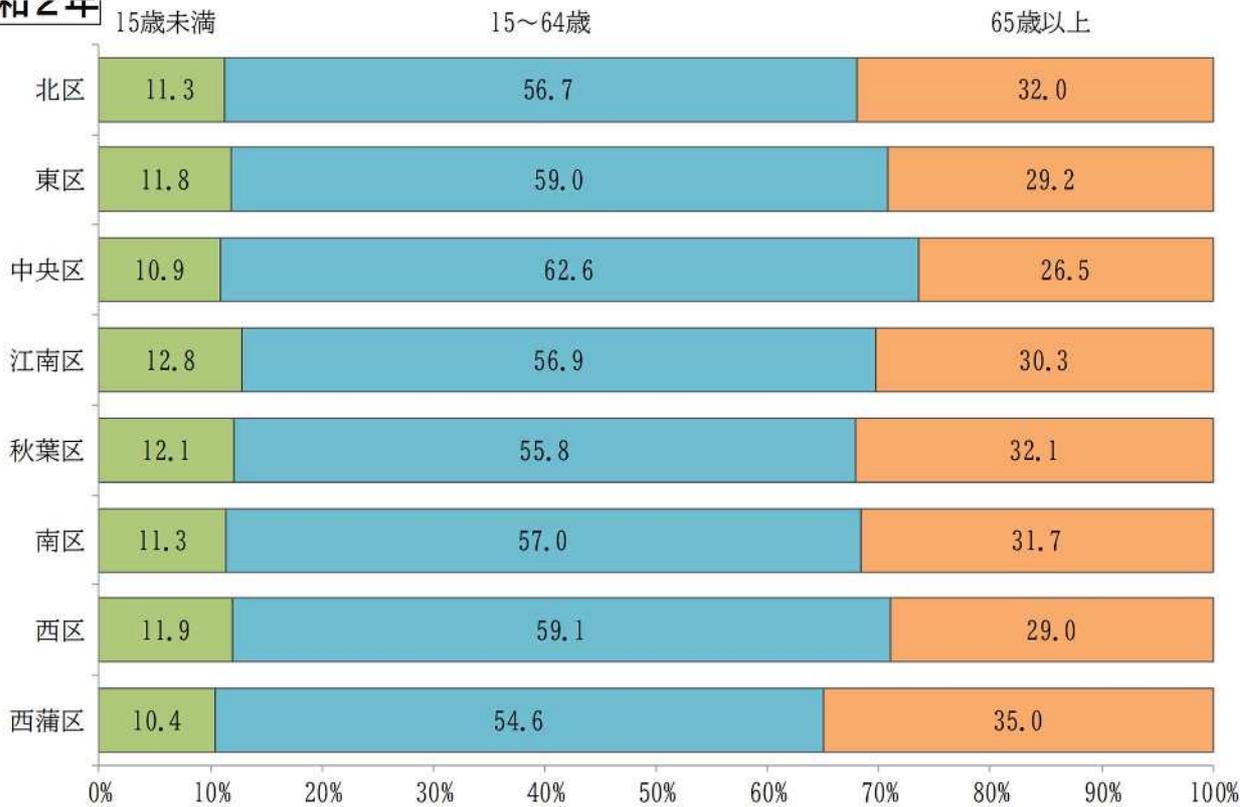


平成27年

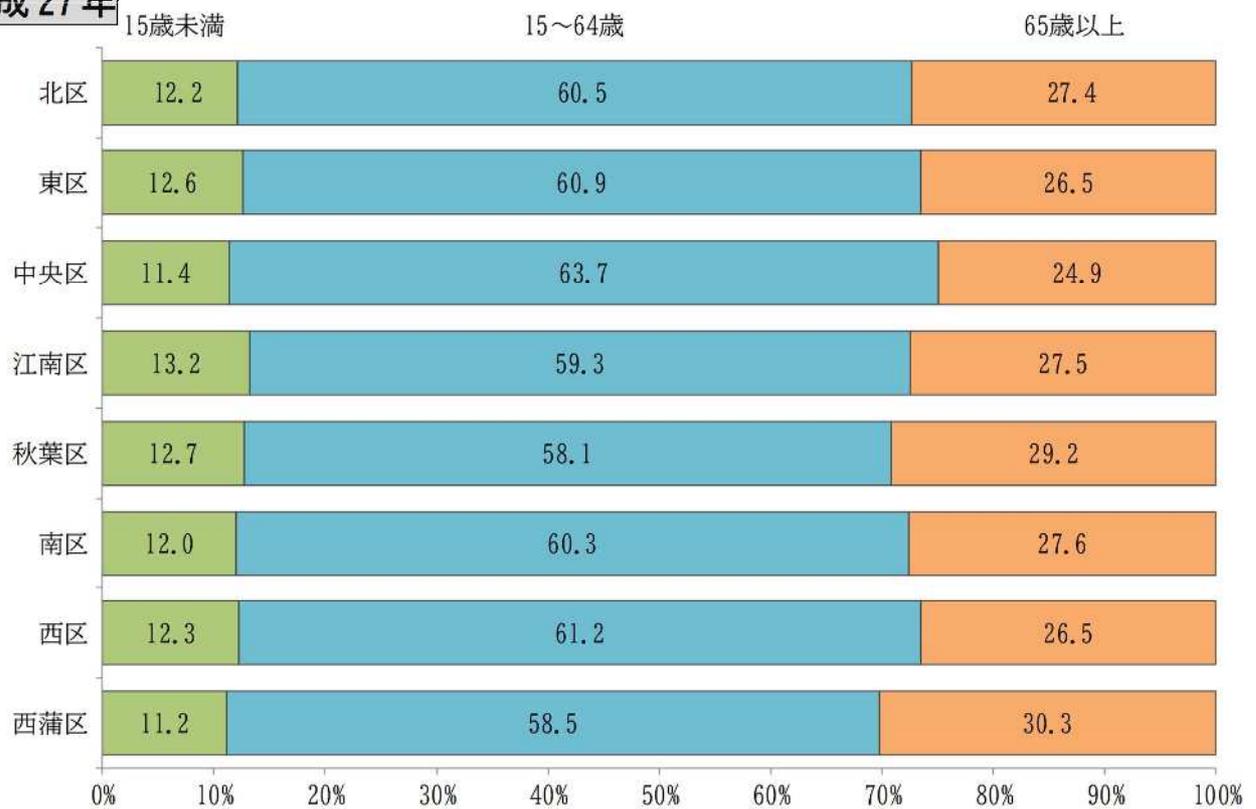


行政区比較③	年齢(3区分)別人口の割合	65歳以上の割合が最も高いのは西蒲区
--------	---------------	--------------------

令和2年



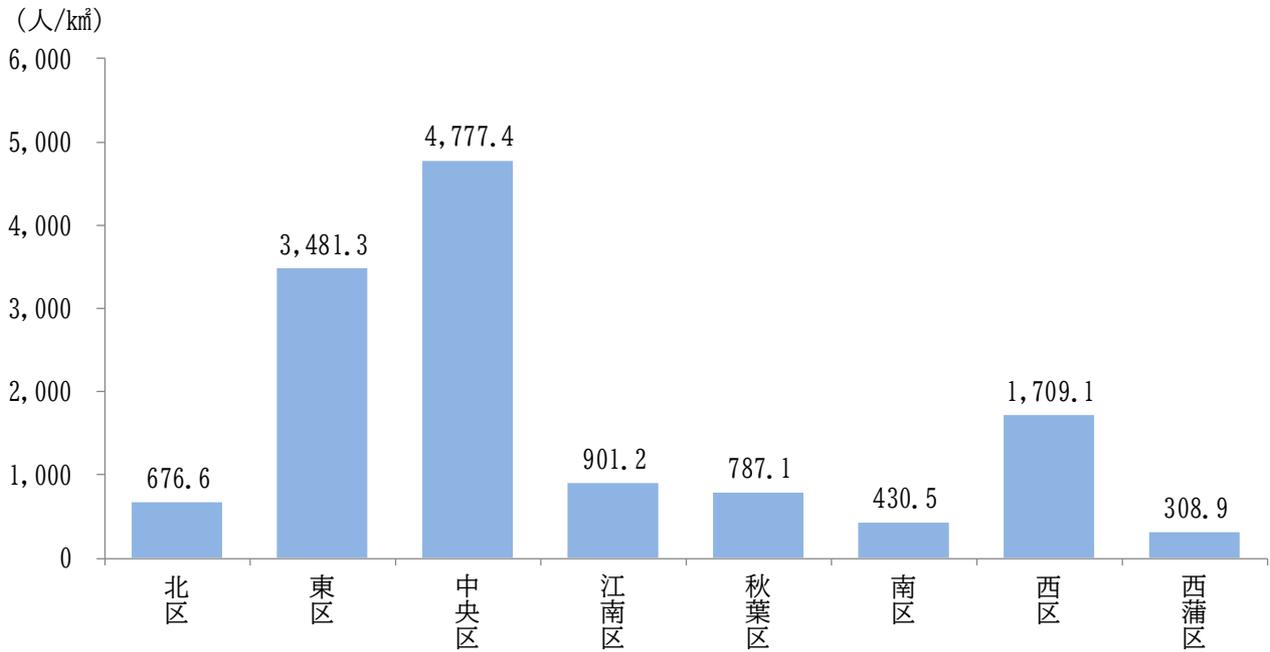
平成27年



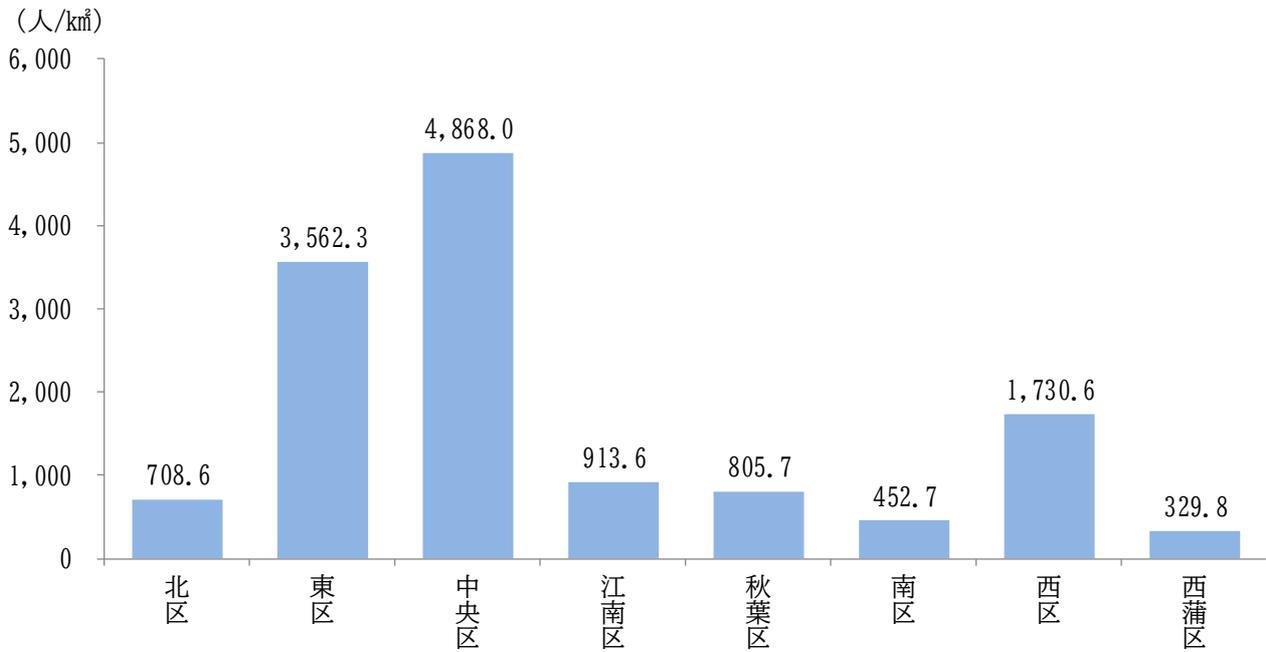
注) 不詳補完値による。

行政区比較④	人口密度	人口密度が最も高いのは中央区、最も低いのは西蒲区
--------	------	--------------------------

令和 2 年



平成 27 年

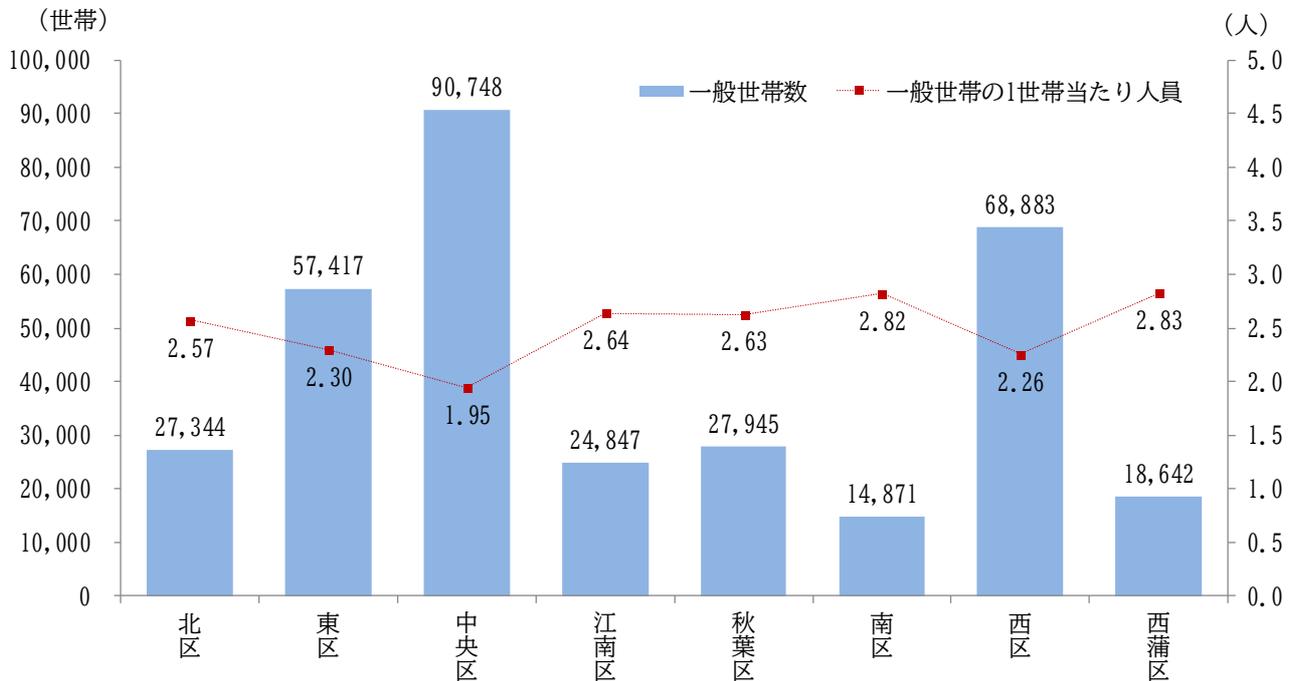


行政区比較⑤

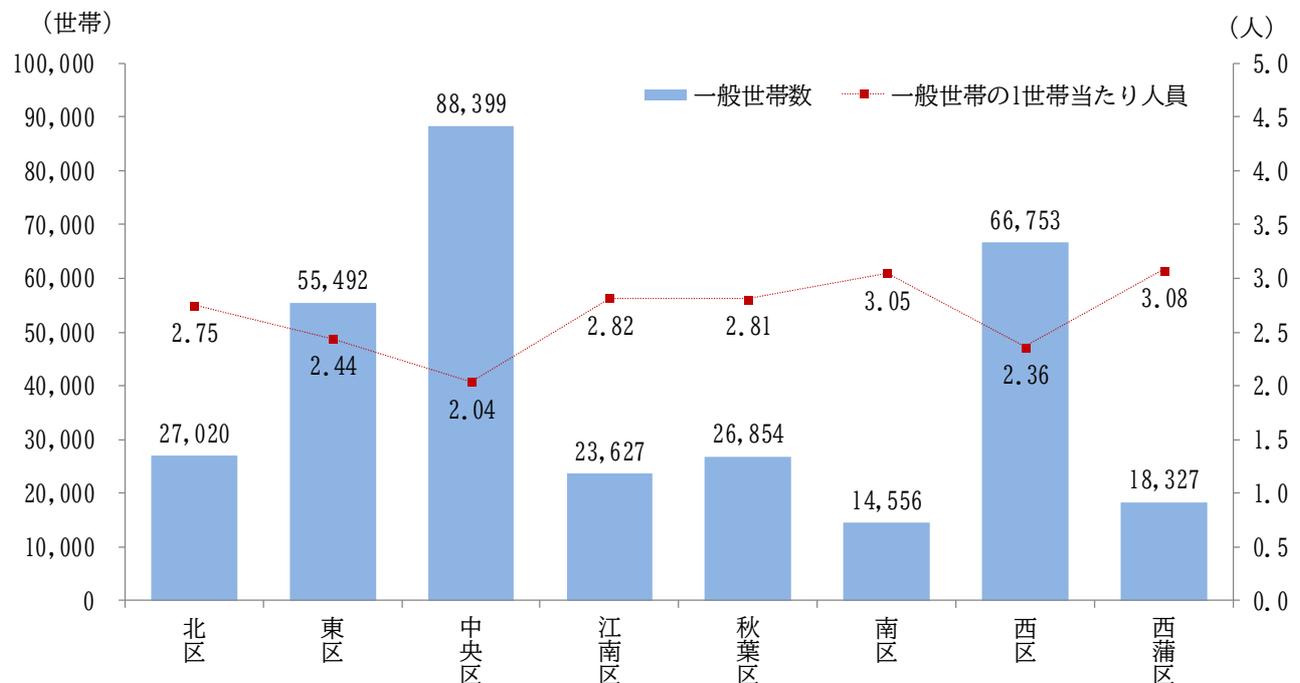
一般世帯数,
一般世帯の1世帯当たり人員

一般世帯数が最も多いのは中央区,
一般世帯の1世帯当たり人員が最も多いのは西蒲区

令和2年



平成27年

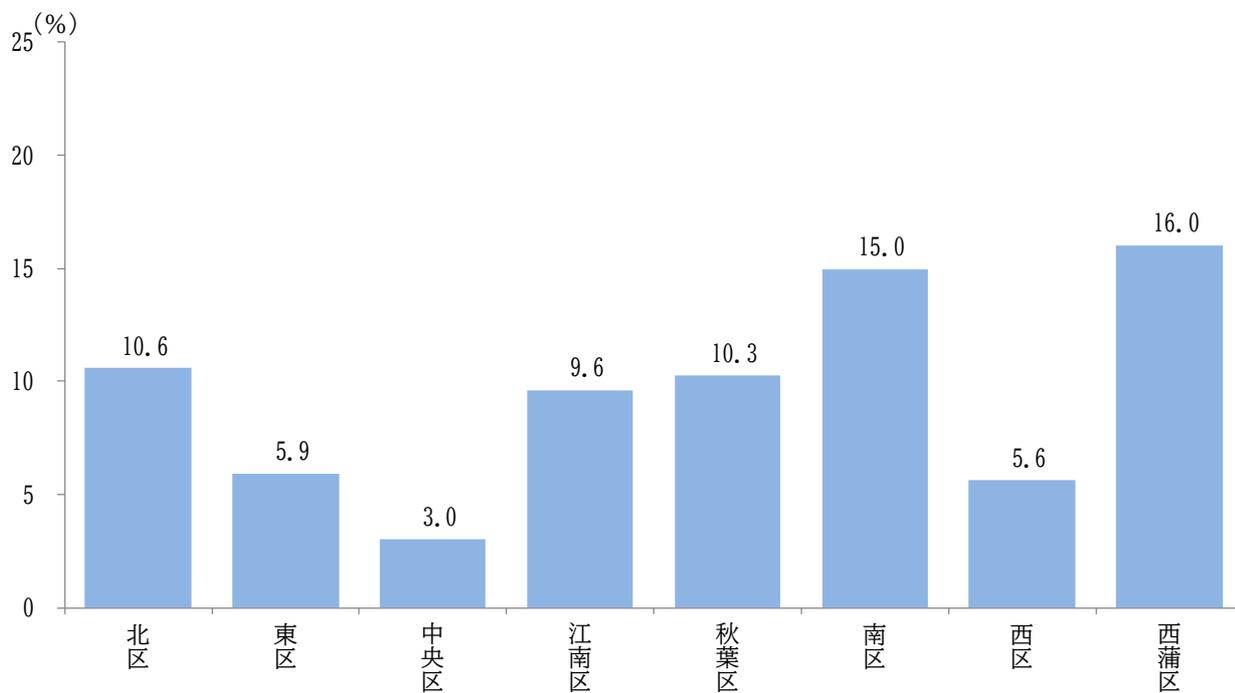


行政区比較⑥

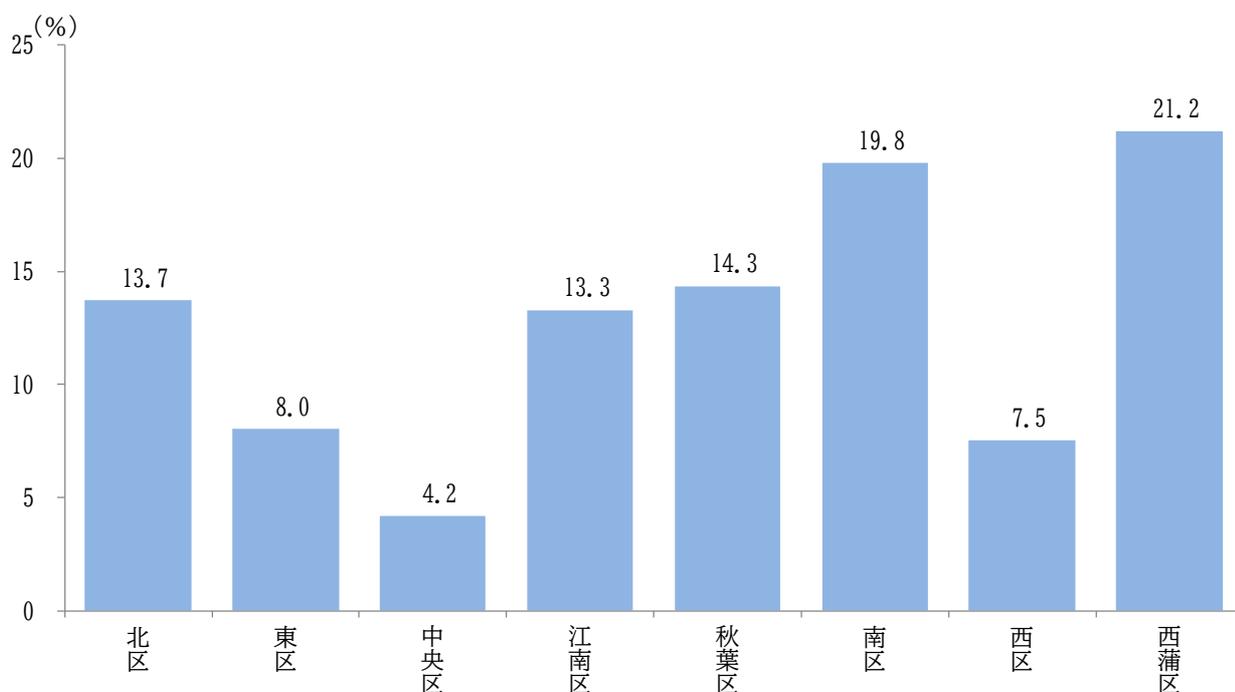
3 世代世帯の割合

一般世帯における 3 世代世帯の割合が最も高いのは西蒲区、最も低いのは中央区

令和 2 年



平成 27 年



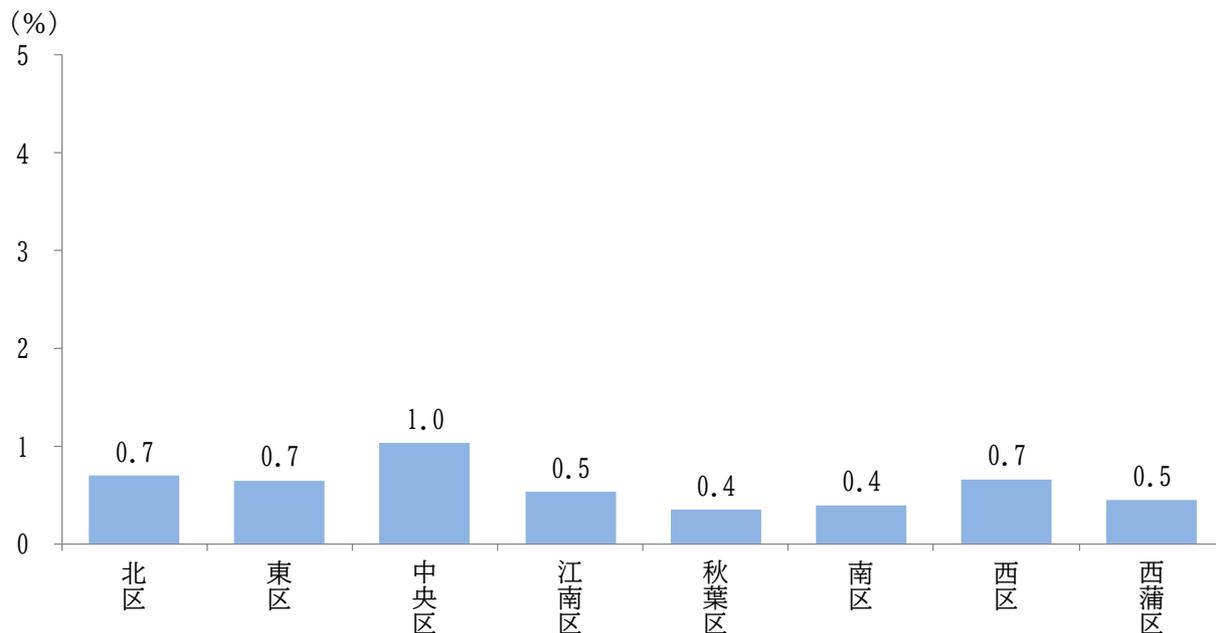
注) 割合は、分母から世帯の家族類型「不詳」を除いて算出。

行政区比較⑦

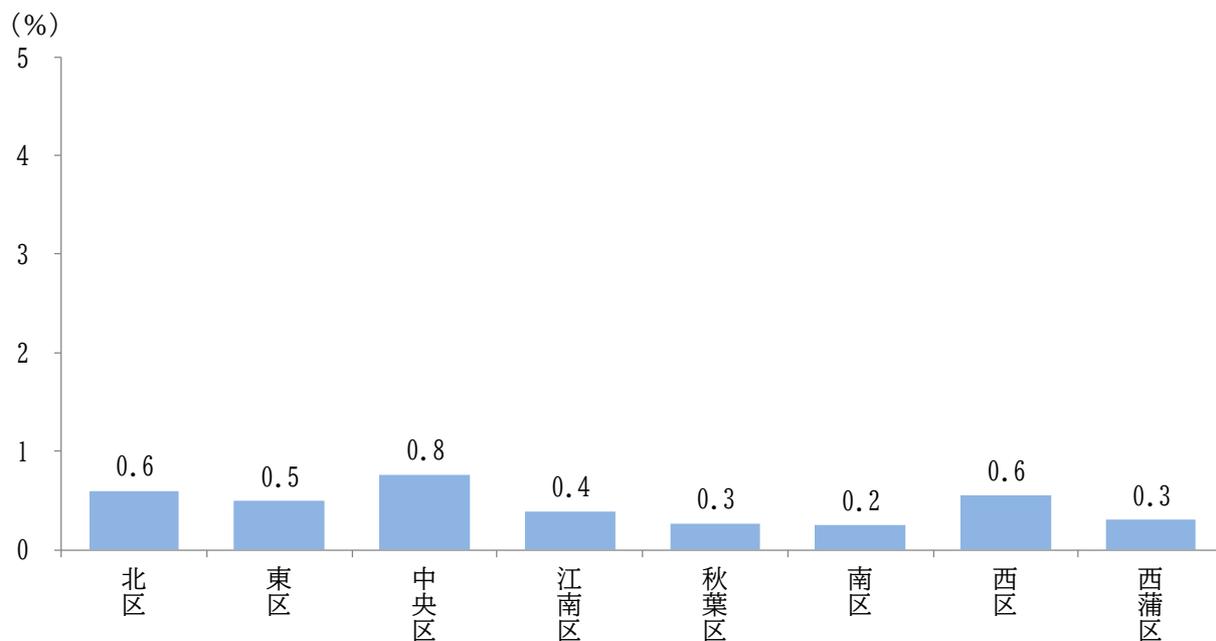
居住外国人の割合

総人口に占める外国人の割合が、
最も高いのは中央区、最も低いのは秋葉区

令和2年



平成27年



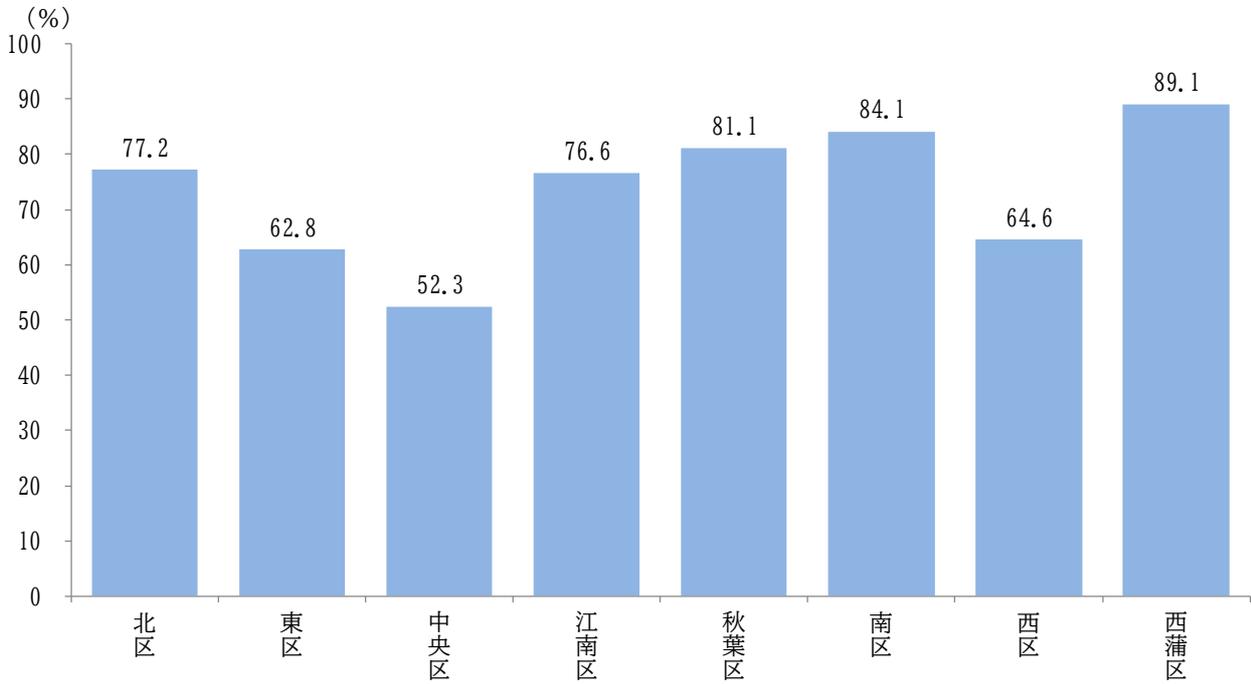
注) 不詳補完値による。

行政区比較⑧

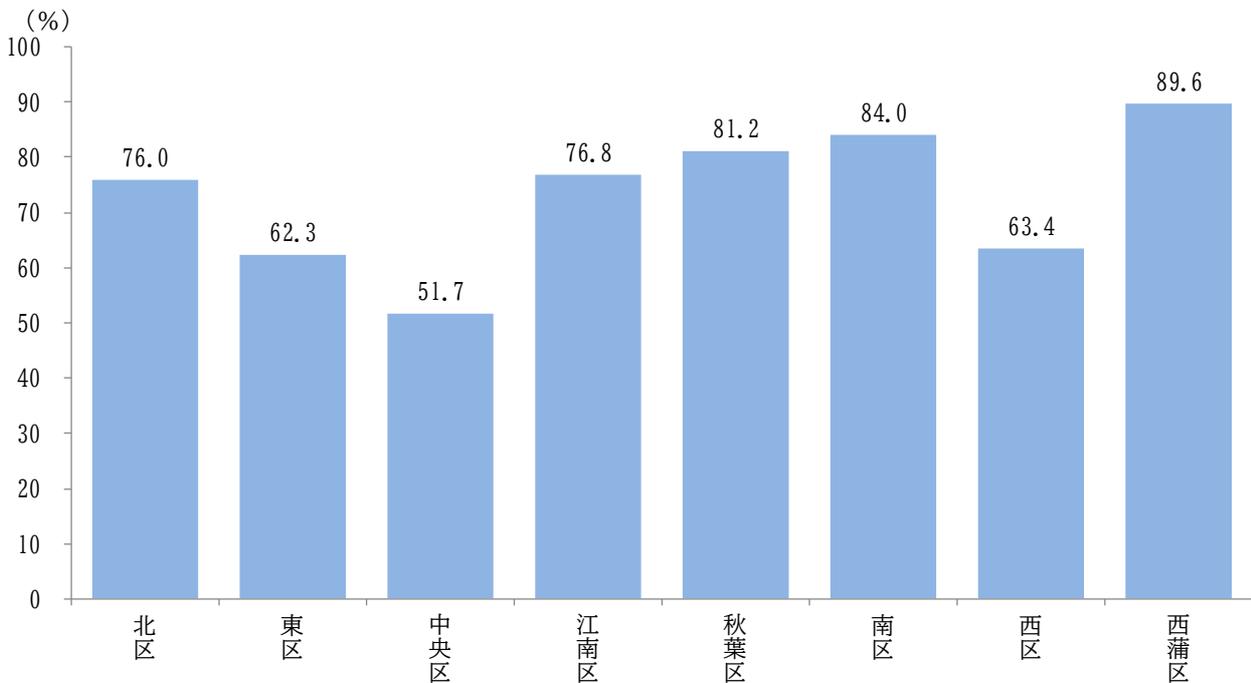
持ち家の割合

住宅に住む一般世帯における持ち家の割合が最も高いのは西蒲区、最も低いのは中央区

令和2年



平成27年

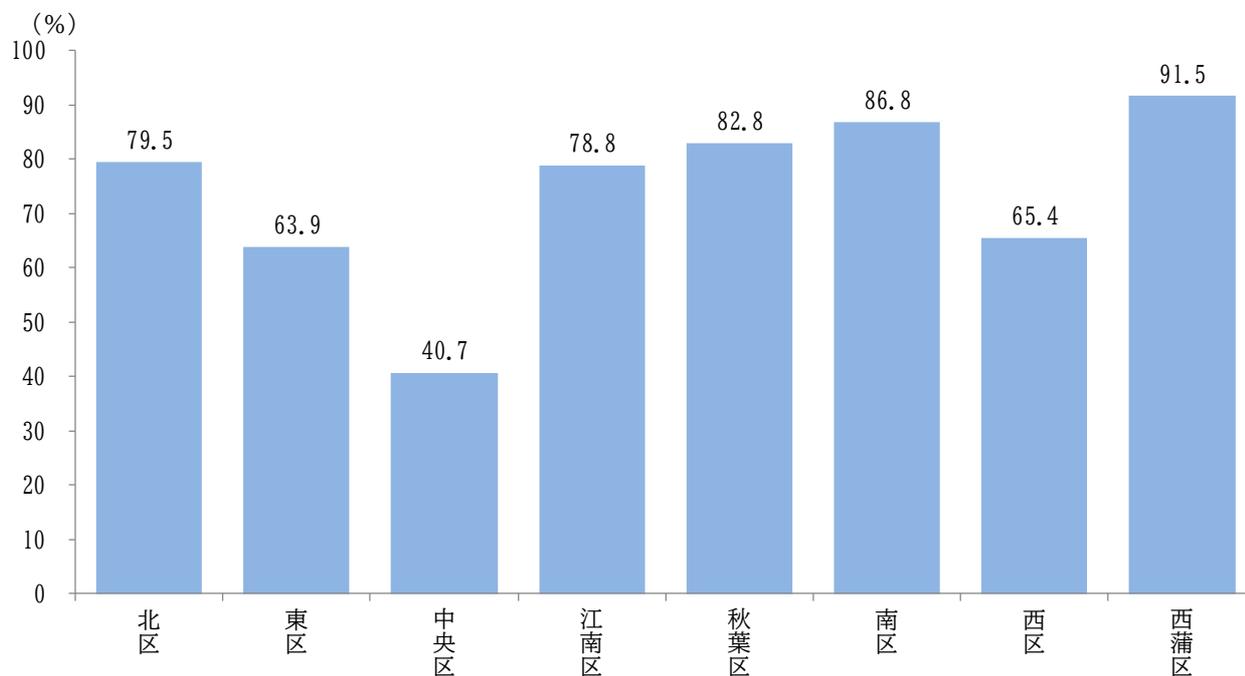


行政区比較⑨

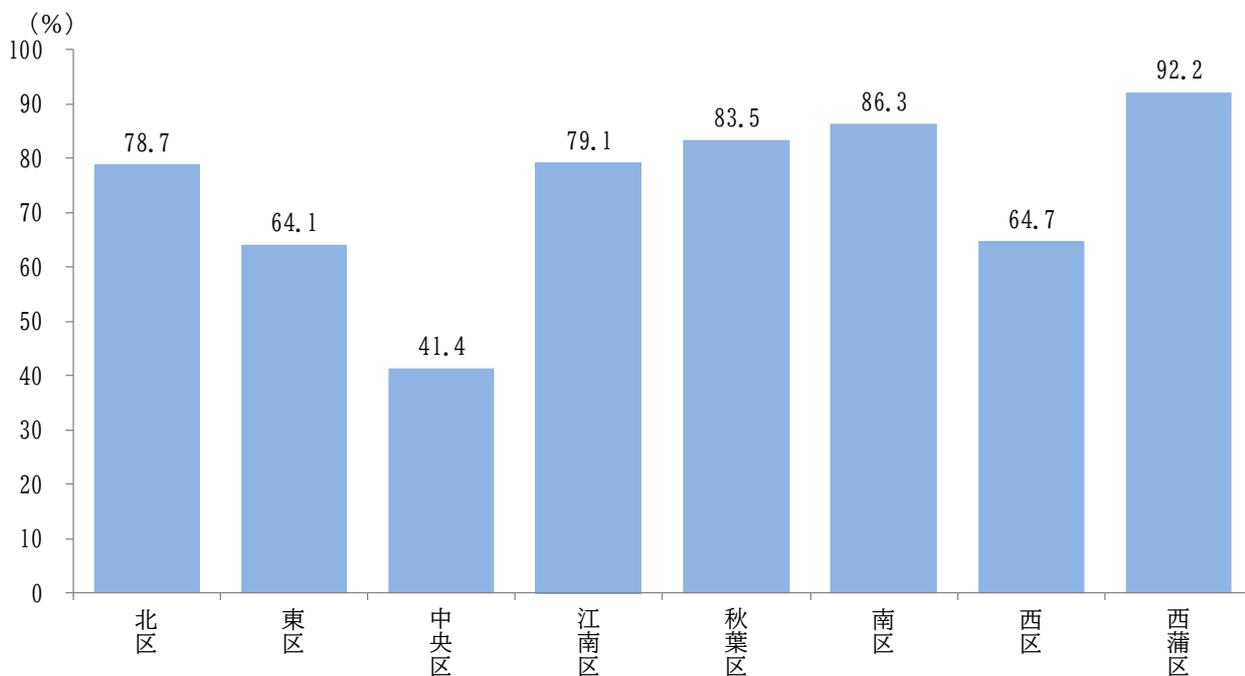
一戸建の割合

住宅に住む一般世帯における一戸建の割合が最も高いのは西蒲区、最も低いのは中央区

令和2年



平成27年

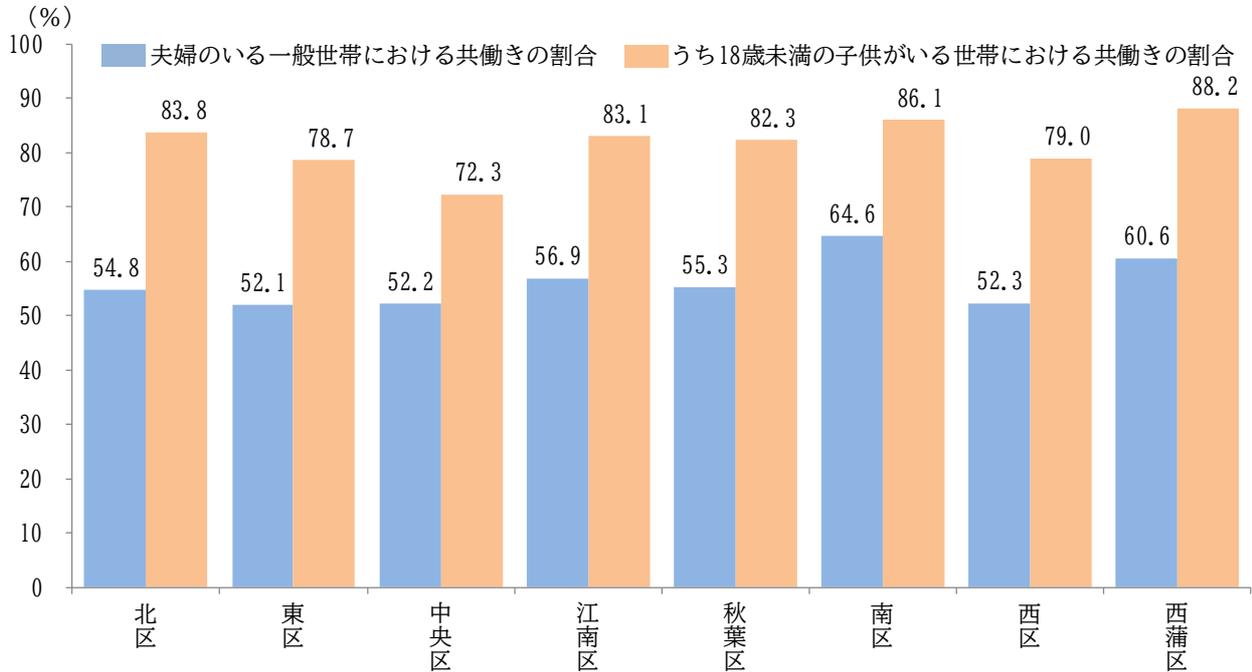


行政区比較⑩

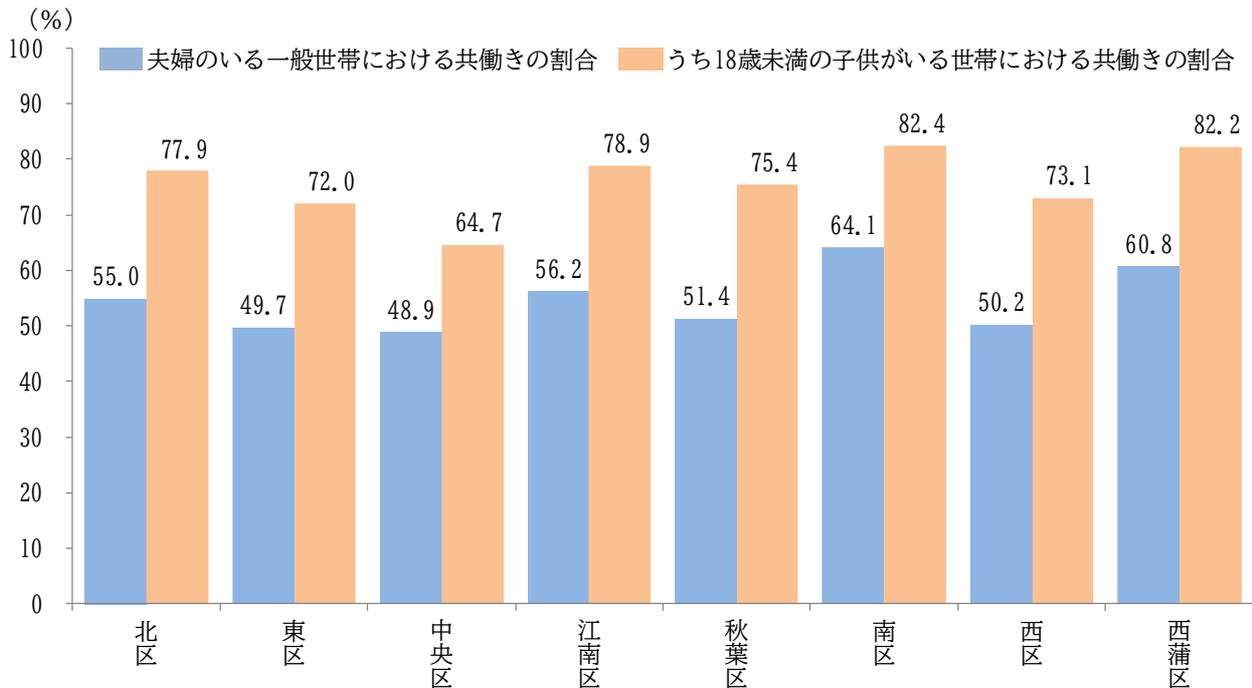
共働きの割合

夫婦のいる一般世帯における共働きの割合は南区が最も高く、うち18歳未満の子供がいる世帯における割合は西蒲区が最も高い

令和2年



平成27年



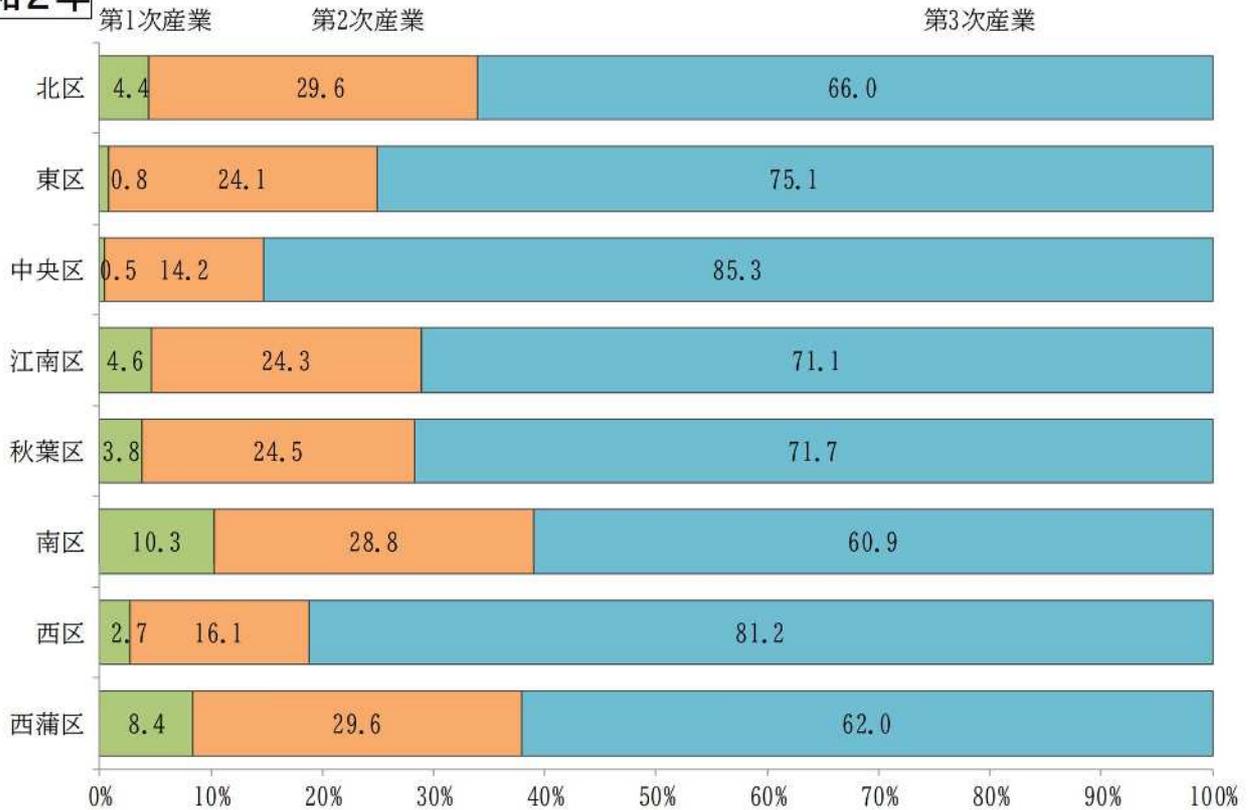
注) ここでの「共働き」とは、夫婦のいる一般世帯のうち、夫・妻ともに就業者の世帯。割合は、分母から夫婦の労働力状態「不詳」を除いて算出。

行政区比較①

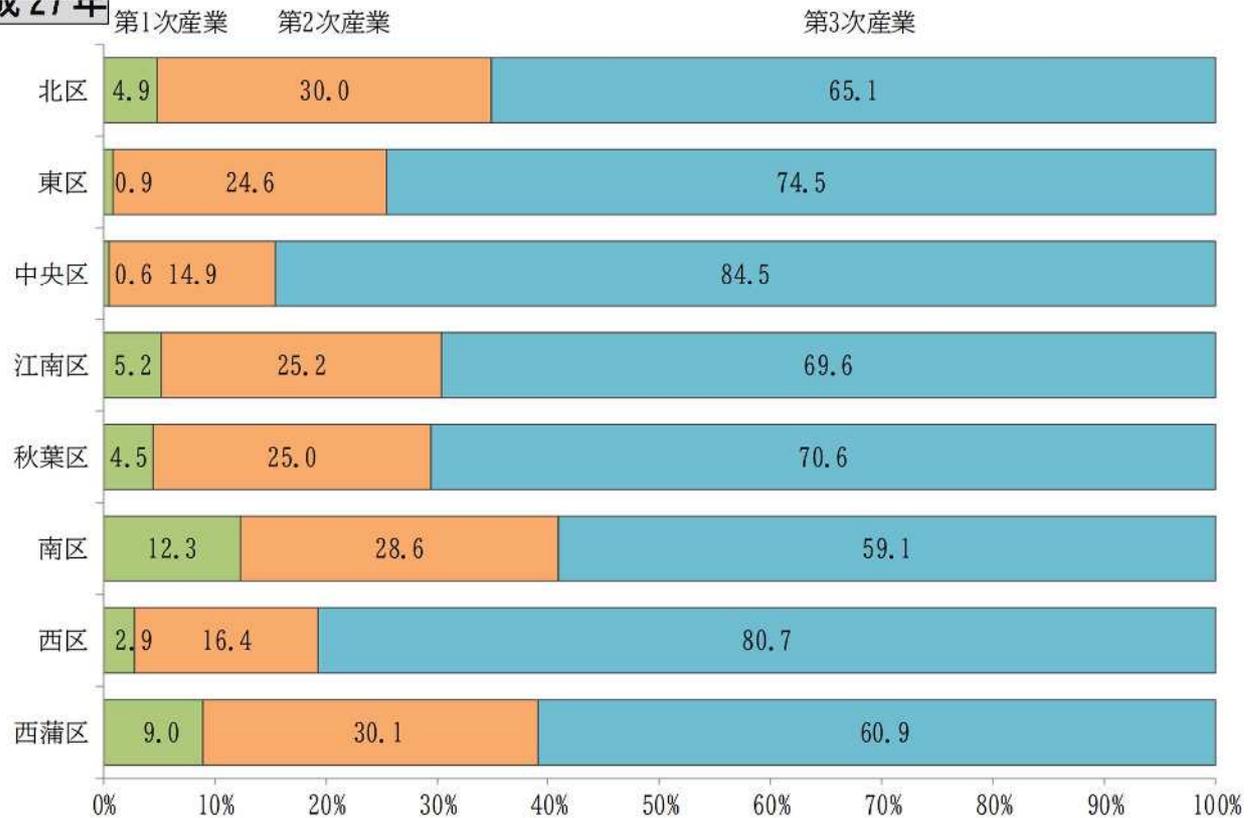
産業(3部門)別
15歳以上就業者数の割合

第1次産業の割合は南区が最も高く、
第2次産業の割合は北区・西蒲区が高く、
第3次産業の割合は中央区が最も高い

令和2年



平成27年



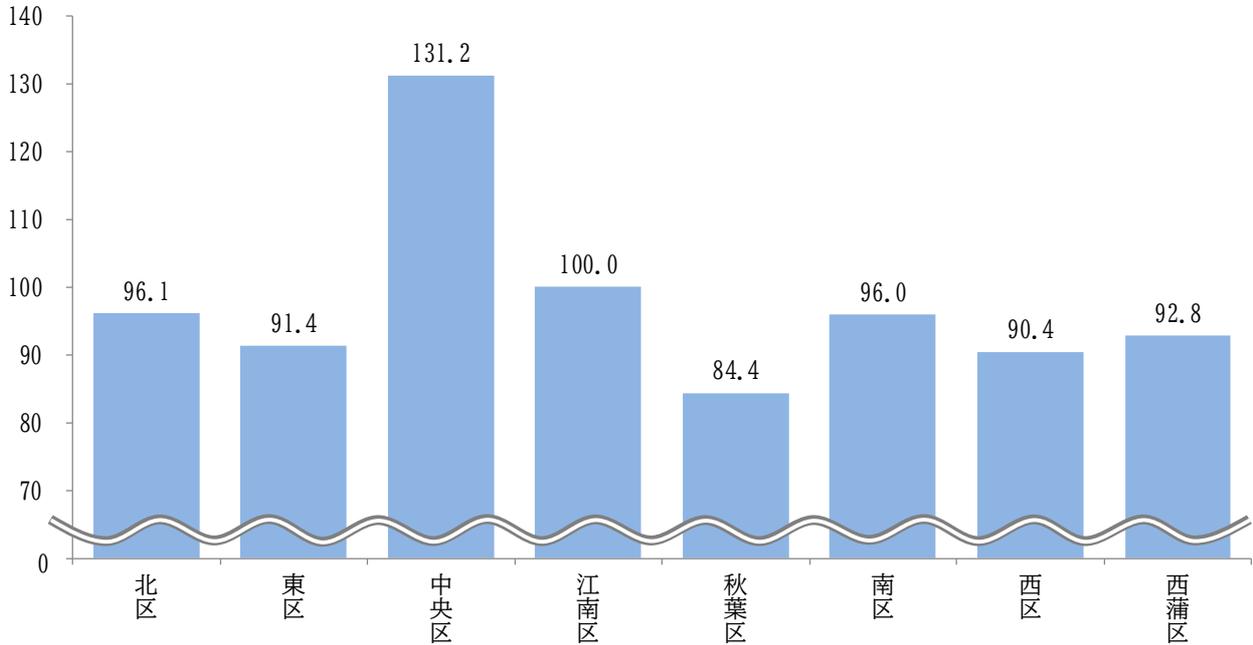
注) 不詳補充値による。

行政区比較⑫

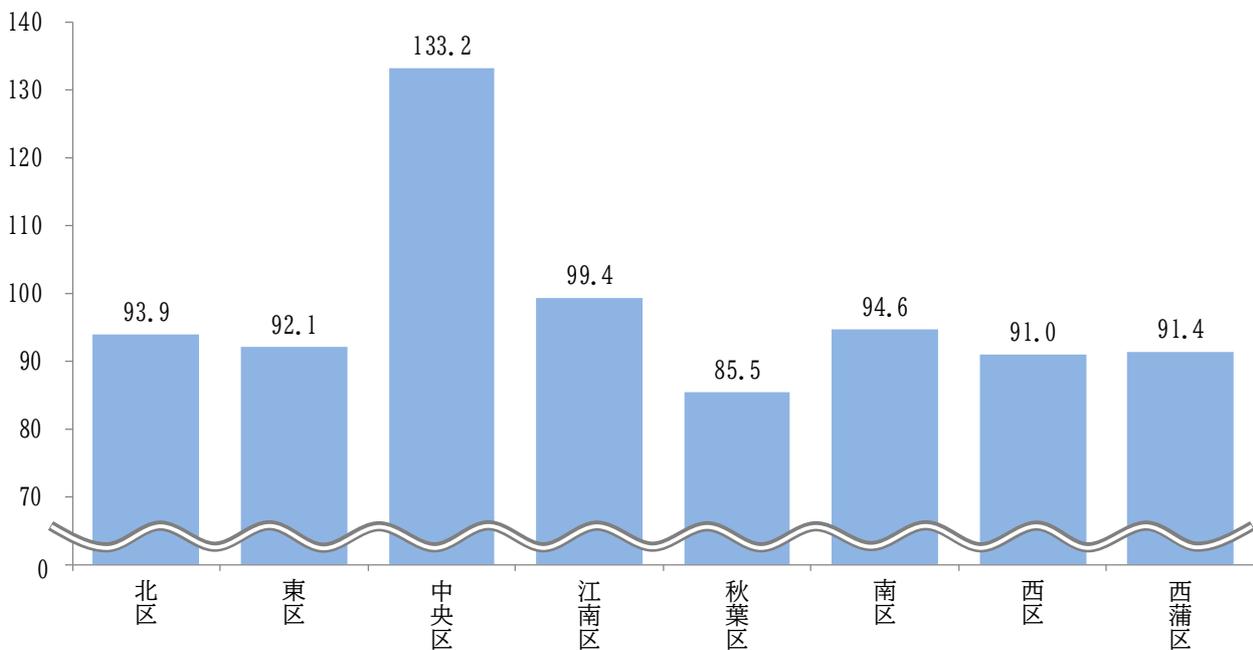
昼夜間人口比率

昼夜間人口比率が最も高いのは中央区
最も低いのは秋葉区

令和2年



平成27年



注) 不詳補完値による。